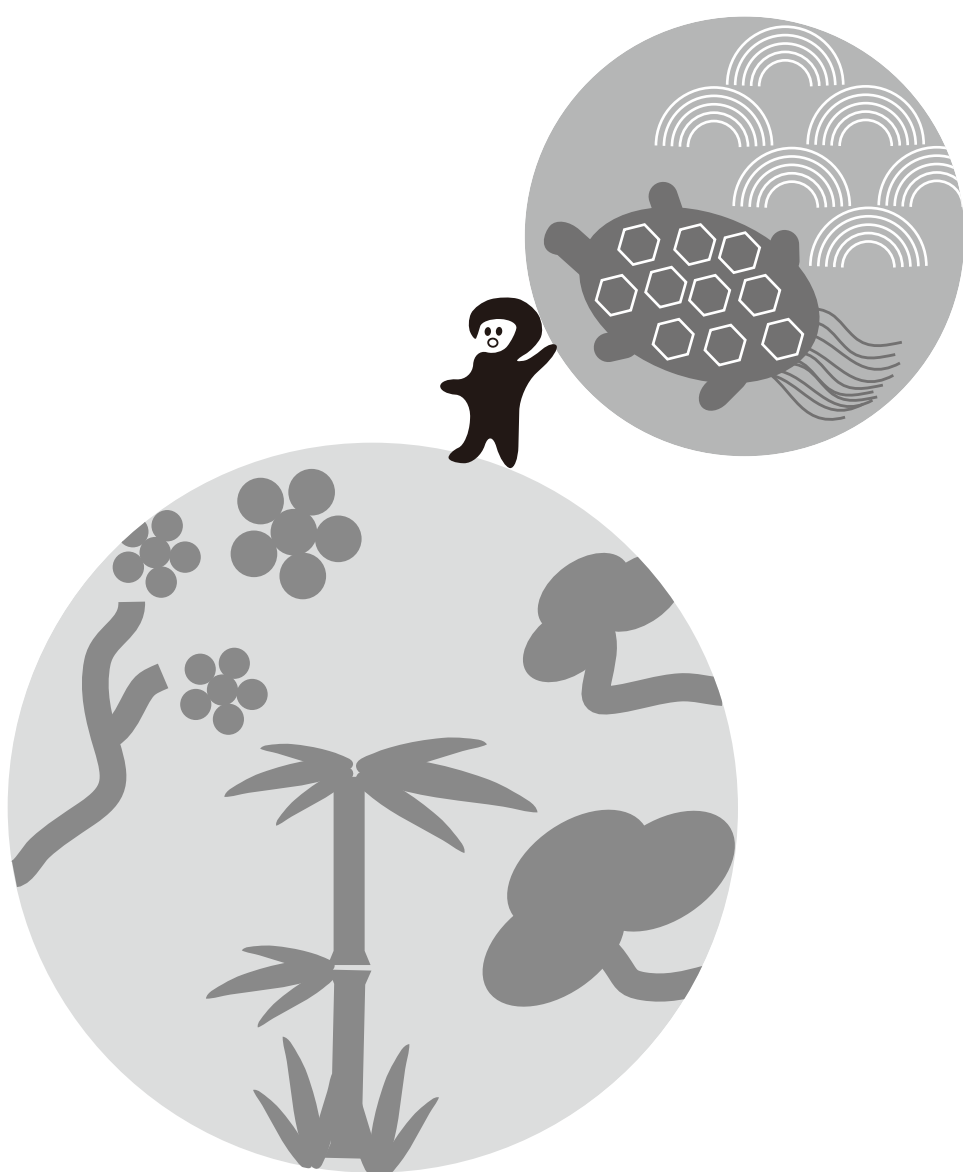


# 万遊鏡



## ごあいさつ

わらべ館 館長 林 由紀子

わらべ館は、「すべての子どもたちと子どもの心を忘れないすべての大人たちのために」設置されました。お客様は、美しい人形や憧れだったヒーローの姿に目を輝かせ、ゆうやけ広場でコマ回しに夢中になり、木のおもちゃを使ってビー玉がコロコロ転がるのを楽しまれています。お子さま連れ、お友達同士、年輩の方など年代や属性を問わず楽しみ、満足の笑顔で帰られるお姿。おもちゃや遊びを通して会話し、交流し、学ぶ、そして心の豊かさを得ていただく、そんなお手伝いが出来ればと思っています。

当館では、所蔵する時節に沿った資料（おもちゃなど）や、類似施設や玩具作家・個人コレクターからお借りした資料などを調査研究し、その成果の報告と発表の場とするため「おもちゃと遊びの企画展」を開催しています。その報告書として『万遊鏡』第9号を発行する運びとなりました。企画展の開催に際し、資料のご提供や関連イベントにご協力くださった方々に心よりお礼申し上げます。

今後も、おもちゃや遊びに関する情報の収集と発信に努めますのでよろしくお願いします。

平成26年3月吉日

## 目次

### ごあいさつ

展示資料口絵・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

#### ◆おもちゃと遊びの企画展

〈会場：ギャラリー童夢〉

遊びの世界の中原淳一・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

飛ぶ玩具・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

ことばあそび・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

千支の郷土玩具展ーおうまが三匹ヒンヒンヒンー・・・・・・・・ 17

さつまの手わざー金助まりー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

〈会場：エントランスホール〉

いろいろなモビール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

平成24年度新収蔵資料展・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28

◆企画展以外のおもちゃ関連事業の紹介・・・・・・・・・・・・ 31

◆わらべ館の今まで（おもちゃ関連の事項）企画展の今まで・・・・ 34

文章作成：長嶺泉子（調査・展示係専門員）  
補足・校正：平緒佐和（調査・展示係専門員）  
高木いずみ（調査・展示係専門員）  
山本繭子（主幹）

【展示資料口絵】

◆飛ぶ玩具



1 世界新鋭の空軍ウツシエ



2 ヘリコプター

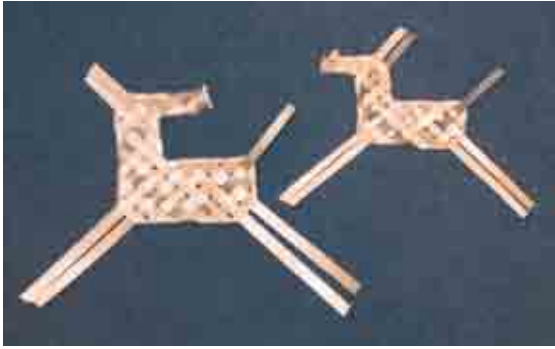
◆ことばあそび



4 『これがわかったらえらい』の絵しりとり

3 子供歌ちんわんぶし

◆千支の郷土玩具展ーおうまが三匹ヒンヒンヒンー



5 親子馬



6 稲馬



7 竹馬 (大山の竹馬)

◆さつまの手わざー金助まりー



8 金助まり「唐獅子牡丹」



←↓9 金助まり「馬」



11 金助まり  
「宝船」(裏「高砂」)



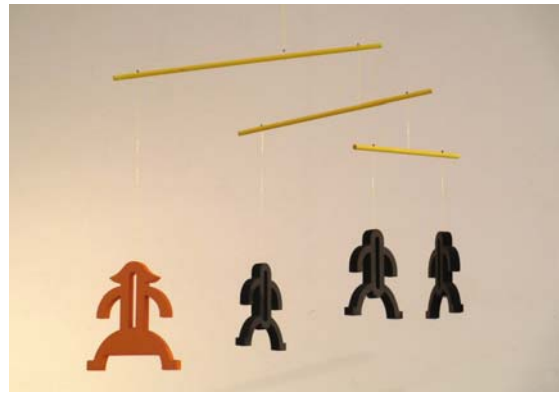
10 金助まり「紫陽花」



◆いろいろなモビール



12 モビール 空



13 ふんばるまんモビール



14 木のスプーン



15 赤い金魚空を舞う (部分)



16 トランスペラント



17 ドット・アニマルズ

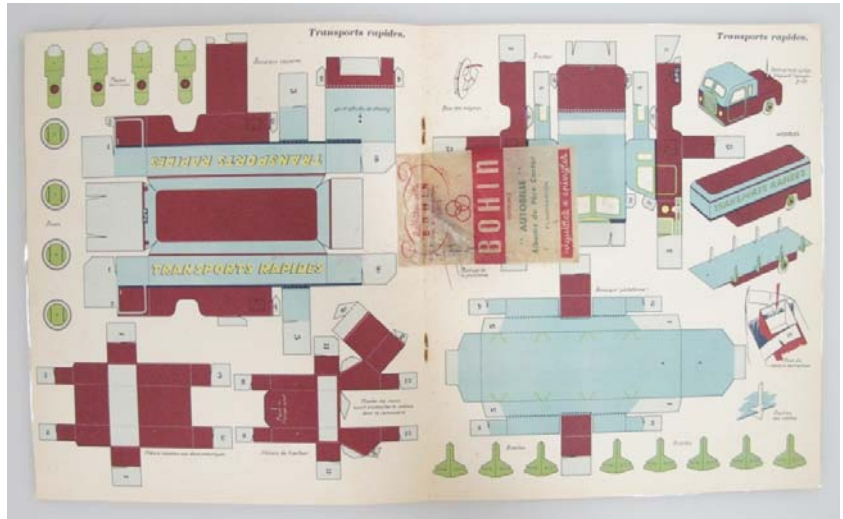


18 魔法使い

◆平成 24 年度新収蔵資料展



19 餅つき兔 (台座付)



20 automobile (album castor)



21 じゃばらこさん (左) とロカ夫

◆岩本実友貴創作人形展



22 コゼット

◆蛙 かえる カエル



23 かえるの針刺

◆鉄道模型ジオラマ展



24 恋山形駅と関連グッズ

「遊びの世界の中原淳一」

平成 25 年 3 月 22 日（金）～6 月 18 日（火）

【開催趣旨】

中原淳一の名前から想起される肩書は人それぞれだろう。人形作家、画家、イラストレーター、ファッションデザイナー、音楽プロデューサー…。2013 年はそんな多彩な活躍をした中原の生誕 100 年に当たる。全国的に回顧展や作品展が開催される中、当館では彼の業績の中から少女雑誌、特に『少女の友』の付録を中心に展示し、「遊び」の要素を持つ中原独自の美意識が、若い世代に与えた影響を探ってみた。

末尾ながら、今回の展示に当たり、資料をご寄贈いただいた長井克美様と、ご協力いただいた株式会社ひまわりや様にあらためて感謝の意を表したい。

【展示資料一覧】

(すべてわらべ館所蔵)

番号	資料名	年代	出版社	備考
1	啄木かるた	昭和 14 年	実業之日本社	中原淳一画 石川啄木歌 『少女の友』昭和 14 年 1 月号付録 50 人の少女の絵札と字札
2	隣組かるた	昭和 16 年	実業之日本社	松本かつち画 『少女の友』昭和 16 年 1 月 1 日号付録 友子ちゃん一家など家族合わせ
3	小倉百人一首	不明	不明	付録かは不明 小型で紙が薄い
4	童話青い鳥双六	昭和 8 年	実業之日本社	中原淳一画 『少女の友』第 26 巻第 1 号付録 昭和 8 年 1 月 1 日
5	シンデレラ物語	昭和初期か	実業之日本社	中原淳一画 『少女の友』6 月号付録 窓や風景が抜き型になっている
6	手藝の本	昭和 12 年	実業之日本社	中原淳一作 『少女の友』第 30 巻第 3 号付録 昭和 12 年 2 月 1 日発行 スリッパ、エプロンなどの作り方
7	お人形帳	昭和 9 年	実業之日本社	中原淳一作 『少女の友』第 27 巻第 9 号付録 昭和 9 年 9 月 1 日発行 型紙付き
8	人形帖その五 皇軍慰問用	昭和 13 年	実業之日本社	中原淳一作 南由紀子編 『少女の友』付録 お人形の作り方 型紙 1 体付 4 体とも同型の型紙
9	女学生譜	昭和 13 年	実業之日本社	中原淳一画 西條八十詩 『少女の友』第 31 巻第 6 号付録 昭和 13 年 5 月 1 日発行
10	叙情手帖 わすれなぐさ	昭和 9 年	実業之日本社	中原淳一装幀 『少女の友』付録 昭和 9 年 2 月 1 日発行 花の絵 世界の詩など
11	バースデイブック	昭和 10 年	実業之日本社	『少女の友』第 28 巻第 1 号付録 昭和 10 年 1 月 1 日発行 誕生日などが書き込めるスケジュール帳
12	リットルウキメン	昭和 9 年	実業之日本社	中原淳一画 ルイザ・オルコット原作 吉屋信子編 『少女の友』第 27 巻第 10 号付録 昭和 9 年 10 月 1 日発行 映画「若草物語」(1933 年)の写真掲載
13	泰西名畫集	昭和初期か	実業之日本社	長谷川露二装幀 『少女の友』付録 少女の友編輯局選定 ワトー、ミレーなど
14	平家物語繪巻	昭和初期か	不明	少女雑誌の付録と思われるが、記載なし
15	慰問用国民歌繪葉書	昭和 10 年代	不明	中原淳一画。「うみゆかば」「白百合」などの歌に合わせた女性像
16	少女の友の歌 うるはしわが友	昭和初期か	実業之日本社	『少女の友』付録 九條武子作詞。3 部合唱の楽譜
17	冬の便り	昭和 12 年	実業之日本社	中原淳一画 『少女の友』12 月号付録 2 枚絵柄違いの封筒
18	秋	昭和 9 年	実業之日本社	中原淳一画 「静かなるま晝」「赤いとんぼ」「遠き想ひ」のメモ紙 『少女の友』付録

番号	資料名	年代	出版社	備考
19	手帖	昭和 13 年	実業之日本社	中原淳一装幀 『新女苑』第 2 巻第 1 号付録 昭和 13 年 1 月 1 日発行 新女苑編 世界の詩掲載。誕生日など書き込める
20	写真立て	昭和 7 年	実業之日本社	『少女の友』4 月号付録
21	スタイルブック	昭和 13 年	実業之日本社	中原淳一画 『少女の友』第 31 巻第 8 号付録 昭和 13 年 7 月 1 日発行
22	子供のきもの	昭和 25 年	それいゆ	中原淳一画 『それいゆ』別冊。223 体のイラスト
23	カレンダー	昭和 10 年	実業之日本社	『少女の友』1 月号付録。月めくり
24	マザーブック	昭和 24 年	ひまわり社	『ひまわり』5 月号付録。母の日の紹介。手芸

### 【中原淳一略年譜】

年代	年齢	できごと
1913 年 (大正 2)		2 月 16 日、香川県白鳥町 (現 東かがわ市) に生まれる。
1917 年 (大正 6)	4 歳	一家で洗礼を受ける (徳島市)。
1926 年 (昭和元)	13 歳	兄、貫一の招きで母と共に上京。
1928 年 (昭和 3)	15 歳	日本美術学校絵画科に入学する。挿絵に興味を持ち、竹久夢二に傾倒、抒情的絵画作品や人形作りに没頭する。
1930 年 (昭和 5)	17 歳	上野広小路にある高級洋装店「かなめや」に、専任デザイナーとして迎えられる。翌年、この店で購入したフランス製マスクを用いた人形が評判を呼ぶ。
1932 年 (昭和 7)	19 歳	銀座松屋で創作人形展「第 1 回フランス・リリック人形展覧会」を開催、大反響を起こす。『少女の友』主筆の目にとまり、挿絵画家として 6 月号でデビューする。
1935 年 (昭和 10)	22 歳	『少女の友』1 月号に初めて表紙絵を描く。2 年後からは同誌上で「女学生服装帖」を開始、ファッション時評もてがける。
1940 年 (昭和 15)	27 歳	自身のブランドショップ「ヒマワリ」を開店し、衣料、人形、便箋類など少女たちの人気を集める。戦時色の強まりとともに、検閲が厳しくなり、『少女の友』の淳一が描く抒情的な少女の表紙絵が 6 月号を最後に消える。この年、元宝塚スターの葦原邦子と結婚。
1946 年 (昭和 21)	33 歳	神田神保町に「ヒマワリ社」設立。季刊誌「ソレイユ」も創刊。
1947 年 (昭和 22)	34 歳	月刊少女誌『ひまわり』創刊。
1950 年 (昭和 25)	37 歳	我が国初のミュージカル「ファニー」を上演。脚色、プロデュース、演出、衣装、装置をてがけ、話題を呼ぶ。
1951 年 (昭和 26)	38 歳	渡仏し、パリからファッションの話題を『それいゆ』『ひまわり』に送稿。3 年間の滞在予定のところ、雑誌の売上げ激減により翌年帰国するも『ひまわり』を 12 月に廃刊。
1954 年 (昭和 29)	41 歳	隔月刊の『ジュニアそれいゆ』創刊、1960 年第 34 号まで刊行される。
1960 年 (昭和 35)	47 歳	2 年前に心筋梗塞、その後脳溢血で自宅療養中に心臓発作を起こし入院。『それいゆ』は秋の号、『ジュニアそれいゆ』は 10 月号で廃刊となる。
1961 年 (昭和 36)	48 歳	退院後は千葉県館山市で療養生活を送りながら、地元の女性たちに人形作りを教えたり、新聞のコラムを執筆したりした。
1964 年 (昭和 39)	51 歳	健康を取り戻し、パリを再訪。半年ほどで帰国し、仕事を徐々に再開する。
1970 年 (昭和 45)	57 歳	10 年ぶりに女性誌『女の部屋』を創刊するも、体調を崩し、翌年第 5 号で廃刊。
1972 年 (昭和 47)	59 歳	脳梗塞で倒れ、3 ヶ月ほど昏睡状態。意識回復後も館山市で療養生活を送る。地元の詩人の同人誌『黒豹』で挿絵や装丁をてがける。
1983 (昭和 58)	70 歳	4 月 19 日、館山病院にて永眠。

(『大正・昭和の乙女デザイン ロマンチック絵はがき』山田俊幸監修 ピエ・ブックス 2009 年より抜粋)

### 【少女雑誌の流行ー『少女の友』の時代背景】

『少女の友』は明治 41 年 (1908) 2 月から昭和 30 年 (1955) 6 月までの 47 年間、実業之日本社から刊行された。この時代は日本の女性や子どもの文化が花開き、翻弄され、再起する頃と重なる。

明治時代後期には、良妻賢母型とはいえ女子教育の成果が徐々に現れ、自分の意思を言葉や芸術で表現す



ることが一般的になりつつあった。学業に専念、あるいは社会に進出する女性が増えるとともに、彼女たちが求める文学や絵画を提供する雑誌が次々と刊行されるようになる。戦時中に『少女の友』と合併する『少女画報』は大正元年（1912）、『令女界』は同 11 年（1922）、『少女の友』とよく比較される『少女倶楽部』は翌 12 年（1923）に創刊された。

学校では良妻賢母を旨としても、当時の女学生には「自由」を醸し出す特権性が社会的に認められていた。彼女たちが大正から昭和初期にかけて母となるにおよんで、『赤い鳥』など児童雑誌の創刊が相次ぐのは、少女雑誌による表現文化の醸成も一役買っていたと言えるだろう。

### 【『少女の友』の特徴】

『少女の友』のおもな読者層は高等女学校全般の 12 歳から 17 歳とされている。『少女倶楽部』よりも都会的、観念的とも捉えられる内容以外に特徴的なのが、「トモチャンクラブ」という投稿欄の充実ぶりで、全国各地の読者から多くのコメントが寄せられ、それに対する丁寧かつ的確なアドバイスや労り、時には叱咤も返す編集者の言葉に、読者が全幅の信頼を寄せていた。

また、全国的に「友ちゃん会」という集会があり、そちらでの活動を通して「トモチャンクラブ」投稿者同士の横のつながりも生まれた。

このように文章を書いたり、意思表示をしたりすることに臆しない読者が多い分、『少女の友』に関する言説は、他の少女雑誌に比べ、現在に至るまで数多く残されているのではないかと分析されている（『少女の友』とその時代―編集者の勇気 内山基一 遠藤寛子 本の泉社 2004 年）。

### 【雑誌の付録】

中原淳一が活躍しはじめた頃の雑誌でも、今と同様、付録が売り上げを左右する重要な要素だった。ただし、当時の付録は郵便法により紙製のものに限られていたため、各誌がその規制の中でアイデアを絞った。日露戦争（1904～05）の記念絵葉書発行から続く絵葉書ブームに乗じ、各誌が竹久夢二、高島華宵たかばたけかしやうら人気の挿絵画家による絵葉書を付録とし、女性雑誌の隆盛に一役買った。

絵葉書以外の付録には、紙製のバッグや小物入れなども作られたが、本物の真似事にしかならないものより、紙ならではの付録作りを追求したのが中原淳一で、人形の作り方や型紙を載せた「私のお人形」「お人形帳」は大人気となった。他にも中原の少女絵が堪能できる「啄木かるた」や「フラワーゲーム」の出来栄は、所詮付録の域を超えた作品となっている。

### 【展示資料ピックアップ】（ ）内の数字は一覧表の番号

#### ◆啄木かるた（1）

『少女の友』の付録を代表するような作品。花札くらいの小型の札に、女学生をはじめとしたうら若き女性 50 人を洋装、和装、断髪、結髪など丁寧に描き分けていて、かるた取りで遊ぶよりも鑑賞用ともいえるべき出来栄である。石川啄木の歌世界に合わせてか、洋装 12 枚に対して和装が 38 枚と多く、すべて上半身か肩上が描かれている。

かるたの歌は歌集『一握の砂』所収の作品がほとんどである。歌の抒情性と絵の美しさがあいまって、現在でも復刻版が出るほど人気を博している。

#### ◆人形帖その五 皇軍慰問用（8）

中原は、人形製作が女の人に一番ふさわしい手芸と捉えており、少女雑誌の誌面や付録でも、たびたび人形や小物の制作に役立つ型紙やアドバイスを掲載している。この作品では、1 体分の型紙でくるくるクルミちゃん、京屋のお染ちゃん、お菓子やのみいちゃん、お隣の貴美子ちゃん 4 人分の人形が作れるようになっている。

表紙には時局に応じた「皇軍慰問用」といういかめしい添え書きがあるが、日中戦争のさなか、当時の出版業界にはこのひと言を加えることで、やわらかい内容でも出版が認められるという約束事があったようだ。編者の南由紀子とは、主筆である内山基一の妻、内田多美野の別名であり、中原とは対談や編集の相棒として

誌面の表裏に登場している。

#### ◆女學生譜（9）

抒情的な詩で童謡から歌謡曲にいたるまで大きな足跡を残した西條八十さいじょう やそと組み、最新の洋装と和装に身を包んだ女性の絵と合わせた詩集（譜集）を制作した。四季に初夏を加え、春「制服を唄ふ」、初夏「スクール・ライフ」、夏「夏やすみ」、秋「ハイキング風景」、冬「雪降る窓」の5タイトルからなる。アールデコ風の直線的なレタリングとモダンな装丁、色遣いが美しい。

#### ◆冬の便り（17）

女の子が窓からのぞくように切り抜かれたカバーに2枚の郵便書簡がセットされている。郵便書簡とは、ミニレターとも言われる封筒兼用の便箋で、手紙の文面を中に折ると封筒のようになり、文面が外から読めないようになっている。表は多色刷りで着物姿の女の子が描かれ、裏の便箋側は枯れ葉が舞う様子が茶色の一色刷りになっている。

中原は紙ならではの付録の実用性にも配慮しており、手紙やはがきセットは手帳、詩集ともに付録に採用されやすかった。

#### 【関連イベント】

##### ①「啄木かるたであそびましょ」

期日：平成25年3月31日（日）14:00～15:00

場所：ライブラリー

参加無料

（内容）

市販の複製品を用い、小さな啄木かるたの絵札を身近に楽しんでいただく企画。参加者が幼児とその保護者だけだったので、歌のかるた遊びはせず、女の子の絵の違いをいろいろと見ていただいた。

##### ②ギャラリートーク「中原淳一のお人形」

期日：平成25年4月7日（日）、5月19日（日）14:00～14:20

場所：ギャラリー童夢

参加者：計15名

（内容）

タイトルには「お人形」のひと言が入っているが、当日参加された方々は男性が多く、中原の人となりや「付録」の方に興味があったため、内容を変更し、中原の年譜をもとに多彩な活動を紹介し、出版当時の付録事情や今回の展示資料の収集にいたる経緯（書店主のご子孫から寄贈）なども説明した。年配の方は、古い雑誌の付録の価値を再認識されていたようだった。



#### 【参考文献・ウェブサイト】

『中原淳一 美と抒情』高橋洋一著 講談社 2012年

『『少女の友』とその時代—編集者の勇氣 内山基—』遠藤寛子著 本の泉社 2004年

『少女の友 中原淳一 昭和の付録お宝セット』中原蒼二監修 内田静枝解説 実業之日本社 2009年

『大正・昭和の乙女デザイン ロマンチック絵はがき』山田俊幸監修 ピエ・ブックス 2009年

『少女たちへのプロパガンダー『少女倶楽部』とアジア太平洋戦争—』長谷川潮著 梨の木舎 2012年

『別冊太陽スペシャル 中原淳一の人形』平凡社 2001年

「中原淳一オフィシャルサイト」<http://www.junichi-nakahara.com/> 株式会社ひまわりや

「飛ぶ玩具」

平成 25 年 6 月 20 日（木）～9 月 17 日（火）

【開催趣旨】

飛行するおもちゃと言えば乗り物型（飛行機、ヘリコプターなど）や鳥型にほぼ集約されるほか、竹とんぼのようなプロペラ型のおもちゃも多い。今回の展示では、実際に飛行するおもちゃや、飛ぶイメージのおもちゃを当館の所蔵資料の中から紹介する。なお、今展は「跳ぶ＝JUMP」ではなく「飛ぶ＝FLY」の玩具を中心に展示する。

【展示資料一覧】

（すべてわらべ館所蔵）

番号	資料名	材質	年代	国名	製作者
1	欧訪大飛行記念飛行遊戯	紙	大正 14 年	日本	大阪朝日新聞
2	世界新鋭ノ空軍ウツシエ	紙	昭和 16 年	日本	原色版印刷社出版部
3	皇軍慰問 新案アガール	木、糸	昭和 10 年代	日本	不明
4	紙風船	紙	昭和 10 年代	日本	不明
5	航空教材キリガミ よく飛ぶベビグラ	紙	昭和 10 年代	日本	あじあ航空教材社
6	落下傘（グリコのおまけ）	紙、糸、他	昭和 20 年代	日本	江崎グリコ
7	ふうせん（グリコのおまけ）	紙	昭和 20 年代	日本	江崎グリコ
8	プロペラ旅客機	ブリキ	昭和 20 年代	日本	不明
9	模型飛行機日本海号	木、プラ、他	昭和 30 年代	日本	西日本模型連盟選定
10	模型飛行機 A-1 ライトプレーン	木、プラ、他	昭和 30 年代	日本	不明
11	模型飛行機はやて号	木、プラ、他	昭和 30 年代	日本	日本文化教材
12	模型飛行機ペンギン号	木、プラ、他	昭和 30 年代	日本	ユニオン
13	模型飛行機オリオン号	木、プラ、他	昭和 30 年代	日本	ユニオン 日本模型飛行機競技連盟創立委員 設計：浅海一男 製図：中山賢治
14	布貼完成模型飛行機	木、プラ、他	昭和 30 年代	日本	不明
15	木製飛行機 USAF417	木、他	昭和 30 年代	日本	不明
16	BEACH-CRAFT E-18S	ブリキ、他	昭和 30 年代	日本	不明
17	LIFE LIKE ACTIONED MECHANICAL HELICOPTER	ブリキ、他	昭和 30 年代	日本	不明
18	FIRE PATROL	ブリキ、他	昭和 30 年代	日本	マスダヤ
19	杉製飛行機（100 束入り）	木	昭和 30 年代	日本	不明
20	ヘリコプター	ブリキ、他	昭和 30 年代	日本	アサヒトイー
21	CIRCLING HELICOPTER	ブリキ、他	昭和 30 年代	日本	マスダヤ
22	EASTER-COPTER	ブリキ、他	昭和 30 年代	日本	不明
23	SHOOTING FIGHTER	ブリキ、他	昭和 30 年代	日本	野村トイー
24	SPACE CAPSULE	ブリキ、他	昭和 30 年代	日本	堀川玩具工業
25	SPACE CAPSULE WITH FLOATING ASTRONAUT	ブリキ、他	昭和 30 年代	日本	増田屋齋藤貿易
26	SUPER SPACE CAPSULE	ブリキ、他	昭和 30 年代	日本	堀川玩具工業
27	Z-01 THE REDMAN FORM SPACE	ブリキ、他	昭和 30 年代	日本	野村トイー
28	宇宙エースファイター	ブリキ、他	昭和 40 年代	日本	DAITO
29	ヒコーキロー面子	紙	昭和 40 年代	日本	不明
30	ジャンボジェットでんしゃまわり	ブリキ、他	昭和 40 年代	日本	ヒロ
31	鉄人 28 号飛行機	ブリキ、他	昭和 40 年代	日本	(B マーク)
32	JET PLANE DOUGLAS DC-9 TWA	ブリキ、他	昭和 40 年代	日本	野村トイー
33	ニューサンダーバードスカイシップ	プラスチック	昭和 40 年代	日本	バンダイ

番号	資料名	材質	年代	国名	製作者
34	ミラーマン飛行機	ブリキ、他	昭和 40 年代	日本	不明
35	ウルトラマンエース飛行機	ブリキ、他	昭和 40 年代	日本	タダ
36	オリオン号	プラスチック	昭和 40 年代	日本	台和
37	X-7 SPACE EXPLORER SHIP	ブリキ、他	昭和 40 年代	日本	増田屋斎藤貿易
38	SPACE SHIP X-5	ブリキ、他	昭和 40 年代	日本	増田屋斎藤貿易
39	SPACE ROCKET MARS-3	ブリキ、他	昭和 40 年代	日本	野村トーイ
40	U. S. A-NASA APOLLO	ブリキ、他	昭和 40 年代	日本	増田屋斎藤貿易
41	トミカカーゴジャンボ	プラスチック	平成 7 年	日本	トミー
42	パタパタバードビッグ	プラスチック	2010 年	フランス	ラングス
43	HIDROAVION PLUS ULTRA-1927	ブリキ、他	1995 年	スペイン	パジャ
44	ヘリコプター	木	1990 年代	ドイツ	ケラー
45	ルフトハンザスモールジェット	プラスチック	2012 年	ドイツ	シェイファー
46	組み立て飛行機	木、針金	1910 年代	フランス	不明
47	ヘリコプター	紙、木	1990 年代	メキシコ	不明
48	教練機 TRAINING PLANE	ブリキ、他	1980 年代	中国	不明

### 【ライトプレーン（模型飛行機）・ゴム動力飛行機】

ライトプレーンは、かつて小学校の「図画工作」の教材に採用されていた。昭和 30 年代の教科書を見ると、竹ヒゴの曲げ方や固定の方法などが図説され、併せて工具や接着剤の扱いを学びながら作っていた。

ライトプレーンには、サイズによって A、B のクラス（級）があり、A クラスは全長 50 cm 未満、B クラスは全長 50 cm 以上 1 m 以下に分けられる。滞空時間は長くても A が 1 分弱、B が 1 分半ほど。昭和 30 年代には鳥取砂丘で頻繁に大会が催され、ほどよく海風に乗ると、滞空時間が相当伸びたという。現在でも砂丘では、ときおり競技会が開催されている。

### 【乗り物玩具 ブリキの飛行機、宇宙船】

宇宙開発がアメリカと旧ソ連の競争により急発展を遂げたのが、1950～60 年代のこと。時を同じくして、日本でも輸出向けを中心に宇宙船やロケットのおもちゃが登場した。日本国内で昭和 30～40（1955～65）年代に製造されたブリキの飛行機や宇宙船は、実際に飛ぶ機構はないものの、乗り物おもちゃの中でも最新の科学技術や未来を象徴する役割を担っていた。

ロケットや宇宙船型のおもちゃは、造形に想像が加味されているので、模型とは異なり、再現性よりもおもちゃ本体の動きや見た目が重視されている。フリクション（摩擦）機構やプルバック式（後ろに軽く引き手を離すと前に進む）による走行、原色やメタリック色を組み合わせたカラフルな色彩や、ライト点滅などの演出を楽しむ工夫も見られる。



透明な部品もプラスチックで可能に

### 【竹とんぼ】

日本の「竹とんぼ」は、世界各地にある揚力で上昇し、回転しながら落下するおもちゃの中でも、実に簡単で効率的な形をしている。奈良の長屋王邸跡から現在と同じ形の木とんぼが発見されており、すでにその原型が奈良時代に存在していたことが知られている。

ヘリコプターは、この揚力を利用して浮きあがる竹とんぼの進化した乗り物だが、ヘリコプターは竹とんぼの軸のように機体がぐるぐる回転しない構造になっている。

### 【空飛ぶ種子－飛行のヒントー】

植物の中には、種子を風に乗せて遠くへ飛ばし、子孫を残すものがある。タンポポは綿毛が風を捕まえて遠くへ飛ぶが、東南アジアに自生するウリ科のハネフクベ（アルソトミラ・マクロカルパあるいはザノニア・マクロカルパ）の種子（図1）は、20～30mほどの高さからグライダーのように風に乗って、時には100m以上も滑空する。20世紀初頭には、その仕組みを生かした航空機「タウベ」が作られ、第1次世界大戦の軍用機にも利用された。グライダー型の紙ひこうきにも、その飛ぶ要素が盛り込まれている。この形を利用した折り紙でも、上手に手を離すと長い距離を滑空する。



図1「アルソトミラ」  
Alsomitra macrocarpa seed  
(syn. Zanonnia macrocarpa)  
Scott Zona wikipedia

### 【紙ひこうき】

折り紙用紙の紙ひこうきは、古来の伝承型から発展して、紙質や重心の位置、翼の上下の角度などが工夫され、滑空時間を伸ばしスピードアップしている。一般的な折り紙用紙やコピー用紙が安定した飛行を生み出すのに対し、同じ大きさでも新聞紙や和紙は折った状態が安定せず、飛行には不向きである。

折り紙の国日本には、伝承型から尾翼をつけたり、重心点をずらしたりした発展型の紙ひこうきを紹介した書籍やwebサイトが数多く存在し、それらの普及イベントや競技会は国内にとどまらず、世界各地で開かれている。

### 【展示資料ピックアップ】

#### ◆世界新鋭ノ空軍ウツシエ（2）（口絵1）

昭和16年9月30日発行。この「ウツシエ」は水に浸してから転写するシールで、当時の各国の軍用機が44機3枚に分けて選ばれている。外袋には全機の名前が記されており、内訳は日本が17機、ドイツが10機、アメリカが6機、イギリスが4機、ソ連が4機、イタリアが3機である。日本の「神風」（昭和12年、東京～ロンドン間飛行に成功した朝日新聞社の航空機）や陸軍軽爆撃機、ドイツの威嚇用サイレンで知られた「ユンカース急降下爆撃機」、アメリカの「空飛ぶ要塞」と呼ばれた「ボーイング爆撃機」などが、機体の特徴をとらえた彩色で印刷されている。

戦時中は子どもでも飛行中の機影で敵機、味方機と機体を見分けられるよう求められていた。この資料もその意向に沿ったおもちゃではあるものの、敵味方を問わず、飛行する姿や航空工学の面から最先端の軍用機のデザインや技術に憧れと興味を持って接していた少年たちも多い。

#### ◆模型飛行機日本海号（9）（図2）

小学校の図画工作の教材にも採用されていた模型飛行機は、戦前から主に昭和30年代まで、工作好きな少年たちに人気が高く、さまざまなデザインが販売されていた。地名、県名の商品も出された中の一つ。当館では、「鳥取号」という模型飛行機も所蔵している。



図2

#### ◆杉製飛行機（19）（図3）

鼻先にボタン状の小さなおもりがついた薄い杉板の胴体に切れ目を入れて、主翼と尾翼を差し込んだだけの単純な飛行機だが、滑空距離は、風の影響を受けにくい所だと10m前後にもなる。当館所蔵は100個入りの業務用だが、駄菓子屋等で売られている場合は一個ずつ包装されている。

主翼の中心に「KAIHATU」と印字、左右には松葉や菊花、鹿の子模様の和風なシールが貼られている。

#### ◆ヘリコプター（20）（口絵2）

収納時は折りたたんだはずせるプロペラがついたヘリコプターは、ねじを巻くゼンマイ式で走行しプロペラも回転する。右回りに走るよう前輪がはじめから斜めに取り付けられているので、動いている時は常に右旋回しているイメージとなる。



図3 箱書きは無い

#### ◆パタパタバードビッグ（42）（図4）

メーカーによるフランス語の商品名はTim bird。ゴム動力飛行機と同じよう

に胴体の軸に沿ったゴムを 30～50 回巻いて手を離すと、羽ばたきながら 3～4 回大きく旋回し、羽ばたきを止めるとゆっくり下りてくる。尾翼を左右に動かすことで、旋回の向きを変えられる。羽ばたきの音は、パタパタというよりバタバタとかなり大きい音がして写実的ではないが、屋外で見ると鳥が一生懸命羽ばたいているような印象が残る。



図4 濡れても良い素材

#### 【関連イベント】

「紙ひこうきをつくってみよう」

期日：平成 25 年 6 月 30 日（日）14:00～15:00（最終受付 14:45）

場所：わらべ館 滝の広場

定員：先着 30 名（未就学児は要保護者同伴）

参加無料

一般的な折り紙用紙のほか、コピー用紙、新聞紙など異なる紙で飛行機を折って、飛ばす実験をする、という予定でいたが、参加者の大半を占めていた未就学児にとっては一般的な飛行機折りも難しいため、ある程度出来合いの作品を渡して、飛ばす練習を楽しんでいただいた。

幼児は紙飛行機を飛ばすという動作もぎこちないので、比較的滑空しやすい形を選んで、腕を上下に振らず、ほぼまっすぐ前に突き出すよう指導した。しばらくしてコツをつかんだ子どもたちは、10m 近く飛ばせるようになっていた。中には敢えていろいろな飛ばし方をして、どれが最長の飛距離になるかを試す姿も見られた。



何種類かを飛ばしてみる

#### 【参考文献・ウェブサイト】

『模型飛行機』カラーブックス 438 摺木好作著 保育社 昭和 53 年

『おもちゃの科学』2 戸田盛和著 日本評論社 1995 年

『ブリキのおモチャ』熊谷信夫著 グリーンアロー出版社 平成 12 年

「空飛ぶ要塞 ボーイング B-17」航空模型博物館 <http://blogs.yahoo.co.jp/heycrow27>

「ju87 (航空機)」ウィキペディア [http://ja.wikipedia.org/wiki/Ju\\_87](http://ja.wikipedia.org/wiki/Ju_87)

「b17 (航空機)」ウィキペディア <http://ja.wikipedia.org/wiki/B-17>

「ことばあそび」

平成 25 年 9 月 19 日（木）～12 月 17 日（火）

【開催趣旨】

人と人とのコミュニケーションに欠かすことのできないことばの魅力は、あそびの世界でも多様な広がりを見せ、世代や国、地域を問わず楽しまれている。

今回の展示では、おもに昭和 10 年代と 30 年代の児童雑誌の中から、読者の投稿コーナーや編集部コーナー、付録に載せられたことば遊びをピックアップして紹介した。当時の特徴として、なぞなぞ、しりとり以外に「笑い話」と銘打った小咄やとんち話が数多く誌面を賑わしており、落語や漫談などの話芸も子どもたちにとって語彙力を高める要素となっていたようだ。

【展示資料一覧】

(すべてわらべ館所蔵)

番号	資料名	年代	製作者	備考
1	新版江戸道中口合一口噺双六	江戸時代	京寺町二条下ル 柏屋四郎兵衛	東海道の宿場町の地名を口合（くちあい）＝もじりで読み込んだ双六
2	漢詩カルタ	江戸時代	不明	杜甫、李白らの漢詩
3	<small>あずまなごり</small> 吾妻余波壺編	明治 18 年	岡本昆石	日本の衣食住、風俗の英語図圀解集 子どもの遊び 111 点を紹介している 謎掛は enigma
4	子供歌ちんわんぶし	明治 31 年	松野米治郎	「ちんわんぶし」は江戸末から明治にかけて流行した遊び歌 「ちんわんの歌謡」とも
5	新案なぞなぞ集	明治 34 年	荒川コマ	30 点のなぞかけを掲載
6	新案イロハ合せ	明治 41 年	博文館	巖谷小波（案）宮川春丁（絵）のカードゲーム カードの文字が頭文字のことばを言う
7	新板なぞなぞづくし	大正 3 年	沢むらはん	なぞかけが 25 題 年代同定は、日本橋三越の 5 階建て（大正 3 年）建設時による
8	『幼き友』	大正 12 年	ヨキ子供社	投稿によるヒトクチハナシ（滑稽譚）が 8 点
9	『ヨキ子供』	大正 12 年	ヨキ子供社	投稿によるヒトクチハナシ（滑稽譚）が 16 点
10	花言葉	大正時代か	不明	全 28 枚 少女の絵（K. SHIMADA の署名）
11	『セウガク二年生』	昭和 9 年	小学館	第 9 巻第 10 号正月号 絵文字、早コトバ、ゑと字読本 滑稽対話掲載
12	夏休みの面白い読物と漫画	昭和 9 年	実業之日本社	『日本少年』第 29 巻第 10 号付録 笑話、滑稽珍問珍答、滑稽九々問答など
13	おもしろいあそびの本	昭和 10 年	大日本雄弁会講談社	『幼年倶楽部』第 11 巻第 1 号正月号付録
14	考え物の本 これがわかったらえらい	昭和 11 年	大日本雄弁会講談社	『幼年倶楽部』第 11 巻第 4 号 4 月号付録
15	ポケット笑学校	昭和 11 年	大日本雄弁会講談社	『幼年倶楽部』第 11 巻第 9 号 9 月号付録 滑稽話のみ 22 点掲載
16	『少女倶楽部』	昭和 16 年	大日本雄弁会講談社	第 19 巻第 1 号新年号 冠句漫画、ものはづけ掲載
17	『少年倶楽部』	昭和 17 年	大日本雄弁会講談社	第 29 巻第 6 号 6 月号 笑話
18	『幼年倶楽部』	昭和 17 年	大日本雄弁会講談社	第 17 巻第 6 号 6 月号
19	東宝スターいろは歌留多	昭和 33 年	東宝株式会社	全 50 人のスターめんこ 帯付
20	『冒険王』	昭和 33 年	秋田書店	第 10 巻第 7 号 6 月号 笑話、クイズ広場
21	『りぼん』	昭和 34 年	小学館	第 5 巻第 5 号 4 月号 なぞなぞ、県づくし、わらいばなし掲載
22	『まんが王』	昭和 36 年	秋田書店	3 月号 わらいのデパート
23	『少年マガジン』	昭和 39 年	講談社	第 6 巻第 17 号 おわらい大学
24	交通安全かるた	昭和 30 年代か	不明	交通標語の読み札
25	『少年』	昭和 42 年	光文社	第 22 巻第 8 号 お笑いコーナー「珍国語字典」

### 【しりとり】

一人でもできないことはないが、二人いれば何は無くとも楽しめることばあそび。その形式は、語尾の一字を頭文字につなげていく一般的なものから、二音しりとり、たとえば、とけい→けいと→いとこ→とこや…と発展させることができる。これは末尾に「ん」がついても、りぼん→ぼんおどり…とつなげる一方、ぼたん→たんご→×…となる制約があり、難易度が上がるおもしろさもある。

### 【回文】

「しんぶんし（新聞紙）」、「わたし負けましたわ」など上からも下からも同じことばに読める言葉や文章を回文と言う。回文を作るコツとしては、まご⇄ごま わな⇄なわ てんぐ⇄ぐんて のようなさかさ語同士を助詞で組み合わせたり、回文と組み合わせたりすることで、文章を伸ばしていくことができる。かつての旧かなづかいの場合は、濁音と清音の違い、拗音や撥音の有無を問わなかったり、「家」いへ ⇄ へい・えい と複数の読みにできた。

### 【頭韻・脚韻】

頭韻は「あさのあくび」「えいごのえほん」のように、単語の頭の文字や韻を合わせ、脚韻は「さっきのてんき」「なんばでサンバ」のように末尾の文字、韻を合わせていくもの。リズムに乗りやすいので、詩に使われることが多く、韻を踏むラップには欠かせない。早口ことばやもじり、だじゃれとの関係が深い。

### 【<sup>じくち</sup>地口】

江戸時代に庶民が楽しだもじりやしゃれを「地口」と言い、芝居の名文句やだれもが知っている言い回しをもじって、おもしろみのある言いかえをしていた。その地口と絵を組み合わせた地口絵を貼った地口行灯は、江戸中期から幕末、明治初期まで2月の初午祭の時期には神社の境内を彩り、参拝客を楽しませた。東京の千束稲荷神社では、現在も100基ほどの地口行灯が盛大に献納されている。

### 【もじり・だじゃれ】

もじりは一定の句や文章を語調の似たことばにすりかえて、まったく違った意味にするあそび。普段の会話での聞き違いや言い間違いが思いがけず笑えるように、もじりも元の言葉から想像できない意外性が笑いをもたらす。

だじゃれは、現在では「おやじギャグ」といわれることが多いが、もじりや頭韻、脚韻などの技もからんでいて、「電話に出んわ」など、似ていることばをリズムよく言うこともできる。

### 【なぞなぞ】

なぞなぞは「正しい」答えより、ことばの解釈やとんちやひねりが利いた答えが求められる。有名な「朝は4本足、昼は2本足、夕は3本足の生き物は？」というスフィンクスの謎かけは、答えの「人間」の一生を一日に例えた表現として理解しないと、つまらないものとなる。

一般的な「上は大水、下は大火事な～んだ？」という形式のなぞなぞは「二段なぞ」、「AとかけてBととく そのところはC」という「なぞかけ」は「三段なぞ」と言う。

### 【絵文字】

子ども向けには「目」や「手」など、わかりやすいことばをわざと絵に置きかえて暗号のようにした文を読み解く遊び。図1は、小学2年生向けの雑誌に掲載された「ゑとじ読物」で、那須与一の物語の部分が絵になっている。江戸時代には大人も楽しむ「判じ絵」という絵解き遊びがあり、「台所道具」（右図参照）「江戸名所」などお題に沿って、一枚



資料21『りぼん』県をもじる



「さる」に濁点で「ざる」



の紙にいくつもの判じ絵が描かれているが、文章のように前後で察することができないため判読が難しく、教養や語彙力が試されることもある。

ちなみに「文字絵」とは、文字で図像を表現した「へのへのもへじ」やアスキーアートのような作品を指す。

【展示資料ピックアップ】( ) 内の数字は一覧表の番号

◆新版江戸道中口合一口噺双六 (1)

「口合」とは地口と同じ語呂合わせやしゃれのようなことばあそび。この資料は、各コマで「ふろにごゆるりと」(御油：愛知県豊橋市の地名) という風に東海道の宿場の地名を読み込んでいる。

◆子供歌ちんわんぶし (4) (口絵 3)

「ちんわんねこにゃあ」で始まり「おうまが三匹ひんひんひん」で終わるちんわん歌謡は、江戸から明治に伝わることばあそびの一つ。もじりの一種ともされるわらべうたで、手まりうたにもなっている。

◆新案なぞなぞ集 (5) (図 2)

三段なぞが 30 句、巻頭は「猫の好物トかけて 東京に到着かぬ芸人トとく ころろはまた旅か」。他に文明開化の明治らしく「洋服」や「西洋酒」「学校生徒」などのことばも登場する。

◆早コトバ (11) (図 3)

現在では「早口ことば」と言われることばあそびを紹介した雑誌上のコーナー。

例) 長持の上に生米七つぶ あぜどちやう田どちやう(畦どじょう田どじょう)

「長持」に昭和初期という時代が感じられるが、「生米」は現代でも言いにくいことばの定番。

◆滑稽珍問珍答 (12)

なぞなぞと言うより、とんちの利いた大喜利のような答えが笑える。この珍問珍答は投稿ではなく編集部によるものと思われるが、昭和 9 年 (1934) 発行の『日本少年』には、戦時中の雑誌には見られないユーモアが溢れている。

問「お目玉はどうして食べるのだ？」 答「しく汁(しくじる)にして食べるのだ」

問「図に乗って行く先は？」 答「あや町(過ち)さ。有頂天へも行く奴がある」

◆考え物の本 これがわかったらえらい (14) (口絵 4) (図 4)

12 のマスに「しか」「めがね」などの簡単なイラストが 1 点ずつ入り、はじまりと終わりのマスが示されていない絵解きしりとり。当時『幼年倶楽部』に連載された吉本三平の漫画に登場する「こぐまのコロスケ」という人気者の名前を知らないと、現代っ子には解けない。

◆冠句漫画 ものはづけ (16)

昭和 16 年 (1941) の『少女倶楽部』に掲載された「冠句漫画」は、「飛び出して」に続くことばを投稿してもらうようになっている。漫画と言っても時局に合わせて戦時色が濃く、教条的で意外性の無い作品が多い。

例) 飛び出していそいで受け取る軍事便 飛び出してパッと開けり落下傘

「ものはづけ」は「〇〇なもの」に続くことばで、なるほどどうならせるかどうか。この誌面では「ありがたいものは…」に続ける投稿分を紹介しているが、こちら硬直的できまじめな作品が選ばれている。

例) ありがたいものは…迷った時の道しるべ (優等) ありがたいものは…隣組の親切 (佳作)

◆珍国語字典 (25) (図 5)



図 1 「なすのよー」



図 2 1 頁目



図 3



図 4 表紙

元来の漢字を少し加工しておもしろい読み方をさせる文字遊びを偽文字という。この誌面に掲載されたのは小学5年生と中学2年生の投稿による新しい読みの偽文字で、「働」の「力」が無いから「無力」、「話」の線が少し出ているので「電話」と読ませる。「無力」には「働く」力がないから、無力といわれてもしかたがない。」と投稿者によるコメントも掲載されている。



図5 左が中2の作品

### 【関連イベント】

「ことばあそびワークショップ」

期日：平成25年11月10日(日)14:00～15:00

場所：ライブラリー

参加者：30名

当館に良く訪れる未就学児にもわかりやすいことばあそびとして、なぞなぞやしりとりのおもしろさを伝える内容のイベントを開催した。親子連れを中心とした参加者が多く、大人の参加者にとっては子どもにヒントを出すことばの選び方にそれぞれ工夫が感じられた。

#### ◆世界のなぞなぞ

日本(古典)→琉球→シベリア→韓国→ポーランド→ドイツ→フランス→イギリス→イスラエル→インドネシア・マレーシア→日本(現代)の順で、なるべく未就学児にも納得できる答えのなぞなぞを選んだ。子どもたちの解答が意外と早く、やわらかい発想に驚いた。

#### ◆しりとり

全員参加で、最後まで続けられるかというしりとりをした。大人には「5文字で」「しょくぶつ」「いきもの」などの条件を設けて難易度を上げた。隣同士や兄弟、親子で協力しながら最後まで続けることができた。



なぞなぞの出どころを地球儀で示す

#### ◆回文、さかさ語、アナグラム紹介

厚紙とマグネットで作ったひらがなタイルをいくつか並べ、回文とさかさ語、アナグラムの例を紹介した。アナグラムは、あることばをばらばらにして並べ替え、異なる意味のことばをつくるもの。

回文「しんぶんし」 さかさ語「たわし→わたし」 アナグラム「ぼんくらさ→さくらんぼ」

#### ◆判じ絵の紹介

江戸時代の判じ絵数点を紹介しながら、現在の生活でもわかりやすいたべもの、いきもの、台所道具の名前を当ててもらった。これは大人の方に人気があったので、ライブラリーに開架している書籍も併せて紹介した。

### 【参考文献】

『遊びの百科全書』1 言語遊戯 高橋康也編 日本ブリタニカ 1980年(第3版)

『あそんで身につく日本語表現力』1～4 半沢幹一監修 偕成社 2010年

『ことば遊び』鈴木棠三著 講談社学術文庫 2009年

『ことば遊びの世界』新典社選書15 小野恭靖著 新典社 2013年

『新版ことば遊び辞典』鈴木棠三編 東京堂出版 平成10年

『世界なぞなぞ大事典』柴田武・谷川俊太郎・矢川澄子編 大修館書店 1986年

『江戸の判じ絵 これを判じてごろうじろ』岩崎均史著 小学館 2013年

「干支の郷土玩具展—おうまが三匹ヒンヒンヒン—」

平成 25 年 12 月 20 日 (木) ～26 年 2 月 18 日 (火)

【開催趣旨】

馬は人間の生活に大きな影響を与えており、農耕や運搬、乗用として、また薬や食糧としての役割も果たしている。現在の日本では農耕、運搬に従事する姿はめったに見られないが、神にささげる絵馬に神性を感じるとともに、競馬では大勢の人々の一喜一憂を誘う。

今回の展示では、その姿を眺めるだけでも美しさや優しさを感じさせる馬たちの郷土玩具における各地さまざまな表現を紹介する。

【展示資料一覧】

(すべてわらべ館所蔵)

番号	資料名	製法・種類	製作	産地	備考
1	八幡馬 (大)	木工	八幡馬製造合資会社	青森県	黒 「木ノ下駒」「三春駒」と合わせ「日本三駒」という
2	八幡馬 (小)				
3	チャグチャグ馬コ (大)	木工	不明	岩手県	盛岡市と滝沢町で催される祭。午が歩く時の鈴の音を表わす 縁結びや子宝に恵まれるなどの伝説 藤原秀衡が義経に与えた名馬にちなんだ絵馬が始まりといわれる 六原張子
4	チャグチャグ馬コ (小)	木工	不明		
5	忍び駒	わら細工	不明		
6	古代駒	木工	高平真藤		
7	勝ち馬	張り子	さわはん工房		
8	親子馬	編組	不明	秋田県	イタヤ細工 イタヤカエデの若木を細く薄く割いて編み込む 中山人形 平成 26 年切手 50 円モデル
9	春駒鈴	土人形	樋渡隆 樋渡人形店		
10	木ノ下駒	木工	工房けやき	宮城県	木ノ下薬師堂境内の駒市で選ばれた馬の首に下げる木の馬型をが起りか 笹野一刀彫 コシアブラの木を独特の刃物で削り上げる 仙台張子 松川だるまが有名 木工ろくろで独楽やこけしを作るように丸く削り上げる 仙台張子
11	午	木工	米沢美術工芸研究社		
12	黒馬	張り子	本郷けさの本郷だるま屋		
13	午こま	木地玩具	鎌田孝志		
14	午	張り子	高橋はしめ工房		
15	ひょうたんから駒	土人形	相良隆 相良人形製作元	山形県	相良人形 昭和 18 年に廃絶するが、復興 相良人形 佐々木高綱と梶原景季の先陣争いで知られる戦 相良人形 相良人形 道灌の狩り途中に起きた故事が由来 相良人形 子どもの健康や子宝の象徴とされている 三春張子 会津張子 中湯川人形 「こらんしょ」は「どうぞ、おいでください」の意味 中湯川人形
16	春駒				
17	宇治川合戦				
18	竹馬				
19	太田道灌				
20	三春駒	木工	橋本貞雄	福島県	相良人形 子どもの健康や子宝の象徴とされている 三春張子 会津張子 中湯川人形 「こらんしょ」は「どうぞ、おいでください」の意味 中湯川人形
21	飾馬	張り子	不明		
22	騎馬武者	張り子	不明		
23	馬のり子ども	張り子	野沢民芸		
24	来らんしょ 午 (赤) (青)	土人形	青柳守彦		
25	豆招き 午 (赤) (青)				
26	春駒持ち				
27	真弓馬	木工	不明	茨城県	真弓馬とは、真弓の山村で作られた杉、あるいは、良馬の産地の名称とも
28	親子馬	編組	青木行雄	栃木県	鹿沼帚の材料きびがらを用い、箒編みの技術を生かす
29	馬車	張り子	荒井良	埼玉県	川越張子

番号	資料名	製法・種類	製作	産地	備考	
30	騎兵	土人形	千葉惣次	千葉県	芝原土人形	
31	福馬	土人形	白井靖二郎	東京都	今戸土人形 江戸時代後期には、力士像や狐、招き猫が数多く作られた	
32	馬乗り狐				今戸土人形	
33	ずぼんぼ 午	紙細工	いせ辰		足先にシジミを付けて重りにし、下からあおいで浮かせて遊ぶ	
34	招午	張り子			江戸張子	
35	初荷馬					
36	だるま乗り					
37	千支奴 午					
38	馬から羊	土人形	助六			
39	赤駒	わら細工	西村久枝 深大寺まいりあめや			現在、門前の茶店で技能を伝承
40	招福午鈴	土人形	齊藤岳南		山梨県	甲府土人形
41	馬乗鎮台	土人形	今井徳四郎	新潟県	水原土人形 「水原の山口人形」とも。竹製、木製の玩具制作から始まる	
42	野馬				昭和52年の年賀切手のモデル	
43	稲馬	わら細工	不明		スゲという植物で編む。平成14年の年賀切手のモデル	
44	春駒(赤)(白)	張り子	中島めんや	石川県	金沢張子 「首馬」ともいう	
45	飾馬	張り子	二橋加代子	静岡県	浜松張子	
46	首馬				浜松張子	
47	吉良赤馬	練物	田中小夜子	愛知県	おがくずと糊を煮て粘土ほどの硬さに練る	
48	吉良赤馬	練物	井上裕美		47の田中さんの娘さんが継いでいる	
49	俵馬	土人形	中島一子		起土人形	
50	花馬	わら細工	不明	岐阜県	中津川市坂下神社のお祭りに出る馬を表わす。背中に挿した花を奪い合う	
51	招福午(赤)(青)	張り子・からくり	藤屋	長野県	奈良井宿のからくり玩具 横棒を動かすと、馬が回転する	
52	飾馬	土人形	細居源悟	滋賀県	小幡人形	
53	馬乗天神					
54	駒に瓢箪					
55	飾り馬					
56	馬方三吉				小幡人形 歌舞伎「重の井子別れ」の一場面	
57	飾馬	土人形	丹嘉	京都府	伏見人形	
58	鞍馬					
59	初春の馬	張り子	峯嘉伸	大阪府	大阪張子	
60	首振馬	張り子	おみずがんだん 生水玩山	岡山県	倉敷張子 明治2年生水多十郎が張子制作をはじめる	
61	春駒	張り子	宮本喜孝	広島県	常石張子 明治20年ころ、宮本久平が泥人形を縁起物として売り歩いた	
62	俵馬	張り子	田中謹二・宮子	鳥取県	鳥取張子 茶町の田中謹二・宮子夫妻による張り子細工	
63	板馬	木工	柳屋		春駒型の竹馬	
64	えと土鈴 午	土人形	大坪英治		因州若桜焼 若桜町に窯を構え、干支の土鈴を制作	
65	馬乗り武者	土人形	三好明 備後屋		倉吉土人形 はこた人形で有名	
66	竹馬	木工			「大山の竹馬」とも	
67	鳥取のえと 午	木工	信夫賢太郎 信夫工芸		ヒノキやスギで制作	
68	午	土人形	加藤廉兵衛		「れんべい人形」「北條土人形」として知られる	
69	子授け・子育て馬(旧)	木工	長谷寺		倉吉市の長谷寺の境内で授けられる	
70	子授け・子育て馬(新)	木工	社会福祉法人 希望の家(若竹の家)		69より厚みが約1cm薄くなっている	

番号	資料名	製法・種類	製作	産地	備考
71	山陰十二支 午 (大中小)	木工	小椋屋 小椋昌雄	鳥取県	エゴノキを木工ろくろで加工 彩色
72	神馬	張り子	高橋張子虎本舗	島根県	出雲張子 大国主命と他の女性の逢瀬を悲しむスセリヒメが命の乗る馬を引きとめた神話
73	張り子の午	張り子	社会福祉法人 四つ葉福祉会		出雲張子
74	袴馬	土人形	大崎文仙堂	香川県	高松土人形
75	琴平御神馬				
76	午土鈴	土人形	とさ民芸店	高知県	香泉人形 初代の山本香泉の名前から採られた
77	八朔の馬 (菅原道真)	わら細工	芦屋八朔の馬保存会	福岡県	8月1日男の初子の祝いに飾り、近隣に配る
78	八朔の馬 (織田信長)			福岡県	
79	馬乗鎮台	土人形	赤坂飴本舗	福岡県	赤坂土人形 「ててっぼっぼ」とも地元で言われる
80	稻荷駒	土人形	のごみ人形工房	佐賀県	能古見人形 平成26年年賀切手のモデル 50円 (寄付金)
81	馬鈴			佐賀県	
82	猿のり馬	土人形	小川亨	長崎県	古賀土人形 土人形の歴史ある型が残る
83	大名馬				
84	花馬				
85	馬乗猿				
86	神馬鈴	土人形	阪本兼次・由美子	宮崎県	佐土原土人形
87	わら馬	わら細工	穂積ツヤ子 たくぼ	宮崎県	高千穂で注連縄などの飾りを制作する
88	鈴懸馬	練物	鹿島たかし	鹿児島県	薩摩首人形 鹿児島神宮の初午祭
89	ポンパチ	紙細工	森山かおり・花見ユリ子 工房みやじ	鹿児島県	「鹿児島神宮の初鼓」とも 太鼓の音にちなむ
90	チンチン馬グー	張り子	不明	沖縄県	琉球張子

### 【日本の馬】

日本には古代よりモンゴルから渡来した馬が在来馬として定着した。現代のサラブレッドとは異なり、全体が小型で丸みのある胴、四肢が太めなどの見た目に加え、粗食に耐える体の頑丈さが特徴である。おもに岩手に産した「南部馬」もそうした在来馬の一種で、体格や姿の良さから都で和歌に詠まれるほどだった。明治以降、軍馬に応じた馬格の大型化が図られ、洋種馬との交配を経る中で、固有種としては絶滅への道をたどっていく。しかし郷土玩具の世界では、かつての南部馬に代表される東北の力強い馬の姿が「八幡馬」や「三春駒」のように、各地に残されている。

馬は人間の生活に深く関わる動物だったためか、郷土玩具の種類も豊富で、素材も土、紙、木材のほか、わら細工の多さが特徴として挙げられる。

### 【展示資料ピックアップ】

#### ◆親子馬 (イタヤ細工) (8) (口絵5)

イタヤカエデの若木を薄く削って編み込んだ、単純かつ美しい造形の馬二頭。大小組み合わせると「親子」にできるが、この資料では、大型の方が振り向く姿になっているので、それを左側に並べると、親が子を気づかっている様子になる。今回の展示では女性に人気があった。

#### ◆稲馬 (43) (口絵6)

スゲの藁で編まれた堂々とした力強い馬の姿が美しく、平成14年(2002)の年賀切手のモデルに選ばれた。馬の肉付きを表現したようなデザインは、他のわら細工の直線的な外観とは異なる印象を持つ。昭和初期に生まれた比較的新しい郷土玩具の表現と言えるだろう。

#### ◆招福午 (51) (図1)

長野県奈良井宿のからくり玩具は、「そば喰い猿」や「びっくりねず



図1 招福午

み」など笑いがこぼれるデザインとしかけで知られているが、この馬も、横棒を動かすと馬が回転し、遠心力で身につけた直垂の袖口から小判をちらちらと見せるようになっている。

◆竹馬 (66) (口絵 7)

「大山の竹馬」という名称で郷土玩具愛好家に知られた、子どもがまたがって遊ぶ春駒型のおもちゃ。握りやすい竹の棒先には独特な目をした真っ赤な馬の頭部が挟みこまれ、反対側には 500 円玉より一回り大きい車輪がついている。張り子の「はこた人形」で知られる倉吉市の備後屋で作られていたが、近年は張り子の制作に限られており、この竹馬も貴重な作品となっている。



図 2 信長の轍

◆八朔の馬 (78) (図 2)

福岡県の芦屋町では初めての男児が誕生した家に、八朔(旧暦 8 月 1 日)のお祝いとして、幟を背負った武者が乗る藁馬を飾った後、近隣に配るとい風習がある。幟には「織田信長」など武将の他、「菅原道真」「緒方洪庵」など歴史上の偉人の名を書き込み、男児の健やかな成長を託している。

イネやスゲなどのわらを束ねたり編んだりしたおもちゃは、農閑期における農家の副業から派生したものが数多くあるが、現在では、農家の副業としてでなく、それらを作る専門の工房や職人、あるいは授産施設が担っている例も多い。

◆チンチン馬グラー (90) (図 3)

沖縄の張り子は車付きの比較的大きな作品が多く、これも 30 cm 近くあり、貴人が馬を御す姿が、馬体を紫色にするなど独特の色調で表現されている。この資料は一度廃絶する以前の昭和初期の作品かと推測される。車を引くと弦がチンチンとなる仕掛けが台座の中にあり、それが名前の由来になったそうだが、この資料にはその部分がなく、馬の首が上下に揺れることもない。ただ、左右にたらしした長いたてがみとくつわから下がる房飾りなど、退色した今でも十分見応えがある。



図 3 貴人の脚部は彩色のみ

現在は、チンチンと音が鳴り、馬の首も上下する張り子が復活している。

【関連イベント】

「馬の人気投票」

期日：平成 25 年 12 月 20 日 (木) ～平成 26 年 1 月 13 日 (月祝)

投票総数：361 票

投票結果 (トップ 3)



図 4 2 位の豆招き

順位	票数	名称	投票理由 (抜粋)
1	36	山陰十二支 午 (鳥取県/岩美の木地玩具)	シンプルだがユーモラス。愛嬌があってかわいい。
2	29	豆招き 午 (福島県/中湯川土人形)	夫婦のようでかわいい。福を招いてくれそう。
3	19	稲馬 (新潟県/わら細工)	藁細工なのにリアル。米どころらしい。

【参考文献】

『郷土玩具辞典』新装普及版 斎藤良輔編 東京堂出版 1997 年  
 『全国郷土玩具ガイド』1～4 畑野栄三著 婦女界出版社 1992～93 年  
 『豊かな暮らしを願う 郷土玩具』『郷土玩具』で知る日本人の暮らしと心① 畑野栄三・岩井宏実監修 くもん出版 2004 年  
 『長寿安産病気よけ…健康を願う 郷土玩具』『郷土玩具』で知る日本人の暮らしと心② 畑野栄三・岩井宏実監修 くもん出版 2005 年  
 『琉球の玩具とむかし遊び』西浦宏己著 関久子監修 新泉社 1994 年  
 『ふるさと玩具図鑑』井上重義著 平凡社 2011 年

「さつまの手わざー金助まりー」

平成26年2月20日(木)～3月23日(日)

【開催趣旨】

鳥取県西部、南部町にある「祐生出会いの館」には優れた郷土玩具コレクションがある。その中には廃絶あるいは希少な作品が含まれ、郷土玩具の歴史を知るうえで重要な資料となっている。今回は、版画家板祐生いたゆうせいの郷土玩具を通じた交遊から収集された鹿児島きんすけ島の「金助まり」とともに、現在、鹿児島で制作されている方々の作品を合わせて展示し、節句飾りとしての手まりとその技を紹介する。

このたび、貴重な作品の展示をご快諾された「祐生出会いの館」様や個人で所蔵される皆様へ、この場を借りてこころより感謝の意を表したい。

【展示資料一覧】

番号	資料名	制作年代	まりの直径	備考(所蔵、素材、絵柄など)
1	唐獅子牡丹	明治時代か	33 cm	祐生出会いの館所蔵、絹
2	馬	大正時代か	15 cm	個人蔵、絹
3	牡丹と唐子	大正時代か	22 cm	個人蔵、モスリン
4	松竹梅	大正時代か	22 cm	個人蔵、モスリン
5	松竹梅	大正時代か	22 cm	個人蔵、モスリン
6	牡丹	平成	28 cm	個人蔵、絹
7	鳳凰(吊り下げ)	平成	25 cm	個人蔵、絹
8	鶴亀(吊り下げ)	平成	25 cm	個人蔵、絹
9	紫陽花	平成	15 cm	個人蔵、絹
10	鶴亀	平成	25 cm	個人蔵、絹
11	宝船と高砂	平成	25 cm	個人蔵、絹
12	制作過程	平成		個人蔵
13	糸雛	平成		わらべ館所蔵、内裏雛
14	押絵雛	大正時代か		わらべ館所蔵、内裏雛、三人官女、左右大臣
15	押絵 源義経と静御前	大正時代か		わらべ館所蔵
16	押絵 七福神	大正時代か		わらべ館所蔵
17	押絵 三番叟か	大正時代か		わらべ館所蔵、2人の白拍子のような舞い姿

【金助まりとは】

幕末から昭和初期の鹿児島では、雛の節句に押絵雛や糸雛、さらに金助まりを飾る風習があった。金助まりは珍しい刺繍の手まりとして、かつて郷土玩具の愛好家には知られた存在だった。その名前の決定的な由来は不明だが、創りはじめた人物の名前説や金糸での刺繍を由来とする説のほか、「絹をくける\*」が「きんすけ」に変化した、という説がある。

幕末、明治初期は貧しい下級武家(士族)の女性が内職で作り、自ら売り歩いていた。昭和も戦後になると、節句の風習の変化とともに作り手も激減したが、有志や公的機関による教室の開催により、現在でも県内各地で伝承活動が続けられている。絵柄も伝統的なも



白いまりに刺繍する(2014年8月)

のだけでなく、作り手のデザインによる新しい表現も見られる。

※くける…折ってある布どうしを縫い合わせる事。金助まりではまりを包む布の端どうしを縫い合わせる工程がある。

【素材とつくりかた】

◆材料・絵柄

部位 \ 時期	幕末～昭和（中期）	現在
芯	おがくず、山吹の茎の芯	緩衝材の合成樹脂系チップ
内側のくるみ	綿・紙・糸	紙・綿・布テープ
外側のくるみ	正絹（ちりめん）、木綿	正絹（ちりめん）
刺繍糸	絹糸、金糸	絹糸、金糸
絵柄	唐獅子、牡丹、鳳凰、御所車ほか	左のほか洋花、昔話

◆つくりかた

- ・芯…かつてはおがくずなど自然の素材を布の袋にまとめて球体にしたが、現在では、緩衝材のチップとナイロン袋を利用し、球体にゆがみが出ないようにポリプロピレン（PP）紐（梱包用の紐）できつくまとめる。それを布テープでぐるぐる巻き、さらに薄く綿を巻いて球体を固定。
- ・内側のくるみ…まりを包み込む大きさのほぼ正方形のさらしの布をかぶせ、布にたるみやゆがみが出ないよう四隅をつまんで30回ほど上下に軽く振り、球体になじませた後、ゆがみが出ないよう縫い合わせていく（くける）。
- ・外側のくるみ…正絹の縮緬をかぶせ、さらしと同じ方法で球体をくるみ、細かくくけていく。
- ・刺繍…外側の布の十字にくけた部分（縫い目）を見えないように、草花の茎や枝ぶりで隠すような絵柄にしている（図5参照）。また、底に当たる布の四隅の部分は、昭和初期の作品を見ると、抽象的な模様を5cm四方ほど刺繍してあるが、そのかたちが何を意味するのかは不明。縫い方は、日本刺繍でいうなりぬい、駒取り、長短さしぬい（図1）などがおもに用いられている。



左から チップ→PP紐→綿テープ→綿→さらし→縮緬

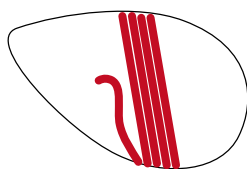
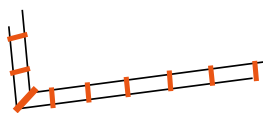
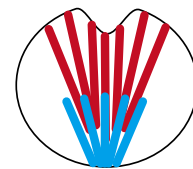


図1 なりぬい



駒取り



長短さしぬい

【金助まりの光景】

◆売り方

節句前には、夜になると作り手である下級の武家女性たちが2、3人で組になって、頭巾で顔を隠しながら「金助マイマイ（まりまり）押し絵ハイ（貼り）」と家々に声をかける。買う方はその顔をのぞき込んだりせ



ずに代金を渡し、売る方は静かに立ち去る。また、売り手の女性のご機嫌を損ねないように値段交渉する場面もあり、いずれにしても武家の体面が尊重されていた。まりは初雛の親戚の家や自分の家用に買われていった。

#### ◆飾り方

雛壇を飾る家では、その天井から紅白のまりを左右につり下げ、前面には家紋を染めた紫の幕を張る。裕福な家では、さらにまりや人形、押し絵雛をいくつも並べて飾った。ただし、こうした飾り方は昭和に入ると大分少なくなっていたという。

鹿児島県の郷土玩具を代表する「糸雛」も金助まりとともに飾られていた（図2）。



図2 糸雛



今回の展示（糸雛と押し絵雛も）

#### ◆絵柄いろいろ

金助まりの代表的な絵柄は、唐獅子牡丹で、唐獅子の黒と金糸、銀糸を用いた牡丹の華やかさの対比が美しい。その他、鶴亀、海老、松竹梅、鳳凰、宝船、御所車、宝珠、唐子などめでたい柄が多く、なかには「浦島太郎」などの昔話か、歌舞伎の一場面と思われる人物の刺繍も見られる。今回展示するなかに馬の刺繍があるが、午年生まれの子の初節句か、馬が持つ豊穡や健康を託して刺繍したのかもしれない。

現代では、雛飾りにこだわらず、洋花や昆虫など新しいデザインの刺繍にも取り組まれている。



図3 軍配を持つ唐子

【資料ピックアップ】（ ）内は一覧表の番号

#### ◆唐獅子牡丹 (1) (口絵8)

損傷は多いものの、美しい球体や刺繍の絵柄の配置など、明治期の優れた伝承技を示す作品。くるむ正絹の生地にも草木の地模様が入っており、もともと質の良い長襦袢などをほどこしたものかもしれない。金助まりの中では大きい方だが、天井からつるすためのひもが天頂部に縫い付けられているとおり（図4）、持ってみると意外と軽いのに驚かされる。

この作品は、板祐生が郷土玩具コレクター仲間である鹿児島在住の川邊正巳に依頼し、入手することができた中の1品。昭和10年（1935）頃には、直径20cmほどの小型が多くなり、出来栄も以前の直径1尺（約30cm）以上のものに比べると見劣りがしたという。かつての大きな金助まりは、当時すでに骨董店で扱われ、入手が難しくなっていた（「金助まり」『鹿児島民俗』東達夫）。川邊正巳は昭和初期に起きた全国的な郷土玩具ブームを契機として一大コレクションを形成したが、それらは現在、鹿児島県歴史資料センター黎明館に寄贈され、金助まりも収蔵、展示されている。



図4 資料1の天頂部

#### ◆馬 (2) (口絵9)

資料4・5と同じ鹿児島の旧家塚田定清・尚子氏宅に所蔵されている作品で、当時のものとしてはかなり小型の部類に入る。オレンジ色のくるみ布はももとの色で、紅絹のような真紅が退色したものではないとのこと。午年生まれの女の子がいたのか、黒赤白三色の綱に繋がれた一頭の白馬と桜の花木が刺繍されている。

#### ◆松竹梅 (4・5)

モスリン地にめでたい松竹梅を刺した明治後期から大正期のもので、旧



図5 中央は何の絵柄か不明

家に所蔵されている状態の良い作品である。金助まりでは、まりをくるむ布をくけた跡が底部から十字状に伸びているが、その縫い目を隠すように、木の幹や枝ぶりがうまく刺繍が配置されている（図5）。

#### ◆紫陽花(9)(口絵10)

昭和から平成の時代へ金助まりの手わざを引き継いだ西村郁子氏に師事した鎌田怜子氏の現代的な作品。淡い紫陽花とはっきりした柄のアゲハ蝶とのコントラストが、小さい作品ながら目を引く。鎌田氏は鹿児島市内で講座を持ち、自身が制作しながら伝承活動にも尽力されている。

#### ◆宝船(11)(口絵11)

「紫陽花」の作者と同じく西村郁子氏に師事し制作を続ける井尻久貴子氏の作品で、絵柄に表裏が無く「宝船」の反対側は「高砂」となっている。どちらの面からも飾ることができ、明るい色調が鮮やかである。

#### 【現代への伝承】

戦後の数少ない伝承者が開いた教室で習得したり、生涯学習施設による講座で習った人々が、さらに伝承者から学んだりして、現在、鹿児島県内にはまりを作られる方々が各地におられる。その中には、公民館等で講座を持ち、自らが伝承活動に従事されている方もいる。近頃鹿児島県内で開催された展覧会には、たくさんの参観者が訪れており、平成になって金助まりへの注目度が高まりを見せつつある。

#### 【版画家、板祐生と「祐生出会いの館」】

資料1の金助まりを鹿児島から入手した鳥取県南部町出身の版画家、板祐生<sup>いたゆうせい</sup>（1889～1956）は、ガリ版を利用して独自の多色刷り孔版画<sup>こうはんが</sup>を創作した。その作品は、季節の花木や収集した郷土玩具がモデルの私家本や蔵書票、カレンダーとなって全国の趣味人に愛され、平成の今もなお愛好者が絶えない。

コレクターとしては郷土玩具のほか、うちわ、ポスターなども収集しており、廃絶した郷土玩具や当時の社会風俗を今に伝える貴重な役割も担っている。それらの収集資料を収蔵、展示している「祐生出会いの館」では、祐生の作品展やコレクション展以外にも、現代の作家による作品展が開催されている。



山川幾百里桜島に  
近き鹿児島町の町より  
はるばると  
金助毬をお送り  
下さいまして  
まことにありがたく  
拝領いたしました（後半略）

板祐生から川邊正巳宛の礼状（部分、鹿児島県歴史資料センター黎明館所蔵）

#### 【参考文献】

- 「金助まり」東達夫著（『鹿児島民俗』第85号）「鹿児島民俗学会」編集委員会編集 昭和61年  
『用と美—南日本の民芸—』南日本新聞社編 未来社 1966年  
「鹿児島県指定有形文化財川邊コレクション目録」菊野智美著『黎明館調査研究報告』第18集 平成17年  
『南日本文化史』川越政則著 北山書房 昭和25年  
『薩藩年中行事』伊地知峻遺稿 鹿児島市教育会 昭和12年  
「金助まり」伝統縫う86歳（『讀賣新聞』1992年9月10日付）  
「金助まり」かごしまの匠 継と創と31（『南日本新聞』1999年10月19日付）  
「郷土がん具の資料編集に取り組む川辺正巳さん」さつまのひと（『西日本新聞』昭和57年1月18日付）  
『はじめての日本刺繍』紅会著 雄鶏社 2005年

「いろいろなモビール」

平成 25 年 6 月 22 日（土）～7 月 21 日（日）

【開催趣旨】

風のみで動くおもちゃとして、あるいは空間を演出するオブジェとして見る人を和ませ、楽しませるモビール。エコロジーの観点から見直され、作り手のアイデアによる多種多様なバランスのとり方が見どころである。今回は鳥取県と隣県の作家 7 名による作品を展示し、地域発のデザイン力を楽しんでいただく。

なお、鑑賞者のために配置した椅子は、トトリプロダクツ協議会にご協力いただいた。会場内の好きな場所へ椅子を動かしてゆっくり眺める姿が見られた。鳥取生まれの「ロビン」という椅子は、かつて全国に知られた家具生産地、鳥取のブランド力を今に伝えるものである。ここで改めて感謝の意を表したい。

【展示資料一覧】

(すべて作家所蔵)

作家 (50 音順)	作品名	素材	作家のコメント
いとひや ひかる 糸日谷 晃	動物モビール	梅 (ツガ・トガ)	ゾウ、カバ、キリン、ウマ、ライオン。
	工作キットオルゴール	ブナ、梅	いとひや特製オルゴール工作キットの制作例。
	モビール 空 (口絵 12)	梅	「空」のイメージをモビールで表現してみました。
東京造形大学卒。岡山県の現代玩具博物館に勤務し、イベントの企画、工作素材・題材の開発を手がけ、工作教室講師も務める。現在、独立して工房を立ち上げ、からくりやインテリア小物などを制作。また、各地の展示会や工作ワークショップで活躍中。岡山県美作市在住。 「いとひや」 <a href="http://itohiya.ikidane.com/">http://itohiya.ikidane.com/</a>			
おかだ たくみ 岡田 卓己	ウェーブふんばるまん	パーティクルボード、杉、塗装	ふんばるまんを題材にして固定式モビール (何か変?) や羽ばたくモビールを製作してみた。 孔子曰く「一家に一体ふんばるまん」
	ふんばるまんモビール (口絵 13)	MDF、ブナ、釣糸、塗装	
	ふんばるまん危機一髪	集成材、ブナ、塗装	
子どもの頃よりマンガ・模型など何かを描いたり作ったりするのが好きで、小さいものは米粒くらいのフィギュアから、大きいものは体育館やマンションまで色々なものを制作。主に木を使用したおもちゃ等を作っている。鳥取市在住。 「t a k u 工房」 (TORIMOKO) <a href="http://torimoko.jimdo.com/">http://torimoko.jimdo.com/</a>			
かきた たかし 柿田 隆	春夏秋冬	樫の葉	葉っぱで季節を表現してみました。
	木のスプーン (口絵 14)	桐	木の使い方の一例としてスプーンを作ってみました。
	杉の美	杉	杉の木の美しさを表現してみました。
木製スプーンやバターナイフのような小さな作品から、自然の形を利用した丸太イス、テーブルなどの大型家具まで制作。2010 年から始めた「クラフトキャンプ in 船岡」を主宰。2011 年、国土緑化推進機構が認定する「森の名手・名人」に選ばれる。鳥取県八頭町在住。 「工房どんぐり」 (TORIMOKO) <a href="http://torimoko.jimdo.com/">http://torimoko.jimdo.com/</a>			
かみはら しろ 紙原 四郎	赤い金魚空を舞う (口絵 15)	紙 (レザック)	なんで金魚は金ではなく、赤いのだろう? と考えながら作りました。
	M O M I J I	紙 (レザック)	自然のカラーコーディネートにはかなわない。
	プロフィール	紙 (ケント・レザック)	こんにちわ。私はこんなヤツです。
滝平二郎の切り絵に魅せられ、グラフィックデザインと平行して活動。『紙原四郎きりえ画文集』は鳥取県公共図書館協議会推薦図書第 1 号となる。絵本『東郷池のピョンタとケロッコ』発刊。各地できりえ教室や出前講座を開催。有限会社ドゥデザイン主宰。鳥取市在住。 「工房 460」 (TORIMOKO) <a href="http://torimoko.jimdo.com/">http://torimoko.jimdo.com/</a>			

作家 (50 音順)	作品名	素材	作家のコメント
きたがわ あすこ	はな	お花紙、紙袋、マスキングテープ、コットン糸など	懐かしくも今も愛され続けるお花紙がモバイルになったら楽しいなと思い作りました。
	びよん	画用紙、ウッドビーズ、クリップなど	まっ平らの紙を折ったり、交互に折りたたむことで動きが出るのが楽しく折り紙ばかりしていた幼い頃を思い出して作ってみました。
	トランスパレント (口絵 16)	トレーシングペーパー、透け感のある紙、動眼、コットン糸など	透けている紙は光を通すので、空間や時間によって表現がいろいろ大好きです。今回はタコをモチーフにしたので糸は海藻をイメージしました。
横浜美術短大グラフィックデザインコース、パレットクラブスクール第1期イラストコース卒。編集会社等を経て、島根県海士町へIターン。三児の母。イラスト、雑貨を制作。ライブ会場等の装飾も手がける。現在、島根県松江市在住。 「mojamoja」 <a href="http://www.sidetail.com/mojamoja-index">http://www.sidetail.com/mojamoja-index</a>			
せきの みちひろ 関野 倫宏	落下白騎士	MDF・アルミ棒・マホガニー・ブナ	かつて勇敢に天上世界で戦っていた騎士も幾世代を過ぎ、遂には最新兵士に敗れ、“廢墟”の如く落下していく。物語は続く…
	ドット・アニマルズ (口絵 17)	MDF・紙 (ラミネート加工)	ドット (点) で描いた動物達のモバイルです。クマ・ウサギ・オオカミ・シカ・タヌキの5匹と杉の樹をデザインしました。
	3匹の猫	ヒノキ (無塗装) ・真鍮棒	3匹の猫の間に、一匹の蝶が現れました。それを追う猫、毛を逆立てて興奮する猫。3匹3様の反応を見せる猫のモバイルです。
意匠師・絡繰師。武蔵野美術大学卒。現代玩具博物館勤務の傍ら、木工玩具の創作を始め、2010年初個展以降、多くの展覧会に木製玩具を出品。2011年 [関野意匠室+絡繰堂]として独立。拠点を製作所：英田郡西栗倉村／事務所：岡山市北区高松とする。翌年関野絡繰堂ギャラリーOPEN。岡山県西栗倉村在住。 「関野意匠室+絡繰堂」 <a href="http://sdr.blog.shinobi.jp/">http://sdr.blog.shinobi.jp/</a>			
わかばやし たかふみ 若林 孝典	魔法使い (口絵 18)	カバ合板、ステンレス、アクリル絵の具 他	たまたま昔のテレビドラマを思い出したのがきっかけ。それは「奥様は魔女」。年配の方は覚えておられるでしょう。
	たたず 佇む人	松、ブナ、真鍮 他	風任せの船に乗る人々。ひょっとして呉越同舟？三脚の自立型モバイルをイメージしました。
	ブラック・スワン	紙、樹脂 針金 他	鳥をモチーフにモバイルを作ろうと考えました。みにくいアヒルの子が成長して大空に羽ばたく姿がイメージできればと思います。
中京大学で心理学を学び、神戸市で児童福祉に携わる。自身の子どものためにおもちゃを手作りしたのをきっかけに本格的に制作。岡山県美作市 (旧東栗倉村) に移り住み、木のからくりおもちゃや時計製作を手がける。わらべ館、富山県こどもみらい館等に作品展示。岡山県美作市在住。 「工房 童」 <a href="http://homepage2.nifty.com/craft/">http://homepage2.nifty.com/craft/</a>			

鳥取、岡山、島根で、ものづくりに取り組む7人のモバイル作品を展示。はじめてモバイル制作を手がける作家もいて、それぞれが木や紙、布、そして金属などの得意な素材を用い、モバイルというテーマで、さまざまな表現に挑戦していただいた。物語のある作品、素材の特徴に着目した作品など、表現方法もさまざまである。

今回、地域の作家の新しい表現の場としてモバイルをテーマに制作していただいたが、後記のアンケートにある通り好評を得たので、継続して開催していきたい企画である。

なお、会場で実施したアンケートを提出された方々の中から、抽選で1名の方にモバイル作品をプレゼントする企画も行った。

〈投票〉

募集期間：平成25年6月22日（土）～7月21日（日）

投票総数：155票

#### 【アンケートのコメント（抜粋）】

- ・テレビでモバイルを見た事があるけど、生で見たのは初めてですごくきれいだと思います。
- ・動きのある立体的なオブジェで改めてモバイルっていいなと思った。風に吹かれてゆったり動いているのを見ると心がゆったりとできる。影もまたきれいでした。
- ・見ているだけで、涼しく感じられました。これからも子供達の為に作品づくりをお願いいたします。
- ・全部の作品、手づくり感があふれていて、かわいすぎる。作り方教えてほしいです。
- ・バランスがとれててすごい
- ・ゆれてとてもきれいで癒されます。作り方教室があるといいなと思います。
- ・色々なデザイン、カラーのがあって、癒されました。きっと部屋に飾ったら、部屋の雰囲気も変わるし癒しの空間だろうな～と思いました。
- ・自分でも作ってみたいけど、バランスとるのが難しそう。
- ・3さいの娘も大喜び！0歳のあかちゃんも口をあけて、目をキラキラさせてました。
- ・動きが面白い
- ・学校でもモバイルを作るので参考になりました。
- ・夏らしいとても素敵な作品ばかりで癒されました。
- ・風や光を感じて、モバイルは素敵ですね。
- ・子どもがジャンプをして楽しそうでした。
- ・外が暑いのですずしくなりました。子どもも立ち止まってじーっと見とれていました。
- ・子どものときに見ておきたかったぐらいにきれいでした。
- ・子ども達に手づくりのおもちゃを見させ創作させたいと思います。

このほか各作品へのコメントも数多くいただいたが、素材や作り方に関する言及も多く、モバイルへの関心が鑑賞だけでなく、制作にも向けられていることが伝わってきた。



「平成 24 年度新収蔵資料展」

平成 25 年 8 月 31 日（土）～9 月 16 日（月祝）

【開催趣旨】

わらべ館では、5 名のおもちゃ資料収集委員の指導・助言のもと、時代や地域を象徴するおもちゃの収集を行うとともに、有志の方々から貴重な思い出の残るおもちゃを寄贈いただいている。今回の展示では、そうした平成 24 年度にわらべ館が収蔵したおもちゃ資料の中から、常設展示や企画展などで紹介されていない資料を中心に、主な分類別にピックアップして紹介した。

【展示資料一覧】

（すべてわらべ館所蔵）

分類	番号	資料名	材質	年代	国名	製作者	備考
寄贈	1	木製人形	木	2012 年	ドイツ	不明	エルツ地方の伝統的人形玩具
	2	木製人形	木	2012 年	ドイツ	不明	6 体 5 色（白が 2 体）
鳥取ゆかり	3	未（北條土人形）	土	1990 年	日本 鳥取県	加藤廉兵衛	廉兵衛氏（1915～2012）。北栄町の土人形作家
	4	サンデー×マガジン 50 周年コラボ雑誌型ジャンボ電卓	プラスチック	2009 年	日本	セガ	少年サンデー・少年マガジン 50 周年記念、アミューズメント専用景品。表紙「名探偵コナン」
	5	ゲゲゲの鬼太郎ひとだまパンチ	プラスチック	1985? 年	日本	啓平社 keiheisha	コイン状のもの（ひとだま）をセットして引き金を引くタイプ
	6	もりやすじ画集	紙	1993 年	日本	有限会社ぱるふ	鳥取出身のアニメーター、童画家
	7	小学館の絵本 たのしい童謡集	紙	1964 年	日本	小学館	もりやすじの表紙絵
	8	ゆらゆらうさぎ（大）	木	2012 年	日本	K-WOOD	前後に揺れる
	9	うさぎの餅つき	木	2012 年	日本	坂間理香	台座の黄色い盆は月をイメージしている
	10	うさぎこま	木	2012 年	日本	坂間理香	台座付
環日本海	11	マトリョール	木・他	2012 年	日本	マンダリンエレクトロン	オルゴールを仕込んだマトリョーシカ
	12	ガルーガ	木	2012 年	ロシア	不明	柱型
	13	マトリョーシカ 愛のブランコ	木	2012 年	ロシア	不明	人形は固定されている
	14	マトリョーシカ船	木	2012 年	ロシア	不明	船長は固定。人形は移動可
からくり	15	巳	木	2013 年	日本	市村繁吉	へびが 3 つの壺から顔を交互に出す。
	16	ロカ夫	木	2012 年	日本	市村繁吉	ウッドベースを弾く男性
	17	じゃばらこさん	木	2012 年	日本	市村繁吉	バンドネオンを奏でる女性
全般	18	箱根双眼写真	紙	大正～昭和初期	日本	不明	18 枚。徳川家達一家の写真含む
	19	ぺんてる双六	紙	1955 年	日本	ぺんてる	飛び双六。楽譜「ペンテルの歌」丹宣雄作詞、加藤省吾捕作、海沼実作曲掲載
	20	山川惣治かるた絵札原画	紙	1950～1959 年	日本	山川惣治	絵札 45 枚分（25×1、20×1）。文字なし
	21	漫画カルタオモチャノ兵隊ゴッコ	紙	昭和初期	日本	不明	鈴の上に「東京」の文字

分類	番号	資料名	材質	年代	国名	製作者	注記
全般	22	家庭遊戯かりの絵合せ	紙	1906年	日本	月のや主人	説明書、絵札 64 枚、予備札 1 枚、東西方向表 1 枚
	23	よっぱらいトラ	木	2012年	日本	坂間理香	盃の上でコマがふらふらと回る
	24	特撮りボルテック 003 快獣ブースカ	PVC・ABS	2010年	日本	海洋堂	ラーメン丼、箸、亀の付いた尾付。目も動かせる
	25	レンジャーキーセット 07	PVC・ABS・PC	2011年	日本	バンダイ	海賊戦隊ゴーカイジャーのセット
	26	ウルトラエッグ ゼットン	PVC・ABS	2012年	日本	バンダイ	卵型から変身するウルトラ怪獣
	27	ウルトラエッグ ダダ	PVC・ABS	2012年	日本	バンダイ	卵型から変身するウルトラ怪獣
	28	パイプロイド「ガイザー+ビーン」	紙	2012年	日本	コト	紙をパイプ状にして造形
	29	パイプロイド「リック+フック+トラック」	紙	2012年	日本	コト	紙をパイプ状にして造形
	30	パンキータンブリングトム	モヘア他	2010年	イギリス	メリーソート	「チーキー」シリーズ
	31	autobille (album castor)	紙	1952年	フランス	アーネスト・フラマリオン	いろいろな車の紙工作の台紙が本になっている
文献	32	舟 (郷土玩具研究シリーズ第一期第二巻)	紙	1966年	日本	郷土玩具研究会	鈴木常雄著
	33	姉様 (郷土玩具研究シリーズ第一期第五巻)	紙	1966年	日本	郷土玩具研究会	稲垣武雄著

展示の分野において、「鳥取ゆかり」とは、水木しげる氏や青山剛昌氏ら鳥取県出身者のマスコミ玩具や、当地の神話「因幡のしろうさぎ」に基づくうさぎのおもちゃが含まれる。また「環日本海」とは、ロシア、モンゴル、中国、韓国など日本海を大きく取り巻く地域のおもちゃ資料が該当する。

#### 【展示資料ピックアップ】

##### ◆木製人形 (1・2) (図 1)

ドイツのエルトス地方は、木のおもちゃの一大産地として有名で、木工ろくろの挽物玩具を数多く制作している。資料 2 は 1 の小型版で、着物の色や表情が少しずつ異なる 6 体がセットになったかわいらしいもの。かつては小さな子どものままごと相手になって遊ばれており、日本のこけしと相通ずる。身体をクロスするリボンは、赤ちゃんの姿勢を良くするためのものという。



図 1 木製人形 (小)

##### ◆もりやすじ画集 (6)

1960 年代「西遊記」や「長靴をはいた猫」等の制作に関わり、優れた後進の指導にあたるなど、日本のアニメーション界に偉大な足跡を残したもりやすじ氏が鳥取出身という事実は、当地を幼少期に離れた経緯もあり、地元でもあまり知られていない。顕彰の意味も込め、平成 24 年度に当館で原画展を開催するにあたり、アニメーション作品以外の絵本や童話の挿絵が掲載された書籍も原画展の補足資料とし、その優れた業績を紹介した。

##### ◆うさぎの餅つき (9) (口絵 19)

制作者の坂間理香氏は、からくりの江戸独楽の第一人者広井政昭氏に師事し、伝承の技にかわいらしいデザインを味付けした独楽や挽物玩具を発表している。うさぎやねこなどをモチーフにした作品は、手のひらに満たない小さなものが多く、回すと動物が小刻みに揺れる様子は、大人が静かに遊んでも楽しめるものとなっている。うさぎこま (10) (図 2) も単 1 乾電池ほどのかわいらしい独楽となっている。



図 2

◆マトリョーシカ 愛のブランコ (13) (図3)

鳥取では環日本海を形成する地域との交流を進めており、そのうちの一つ、ロシアの玩具も収集の対象である。ロシアと言えばマトリョーシカだが、この作品は入れ子式人形ではなく、ブランコに乗る民族衣装を着たマトリョーシカ型の女性と男性が向かい合って揺らせるようになっている。

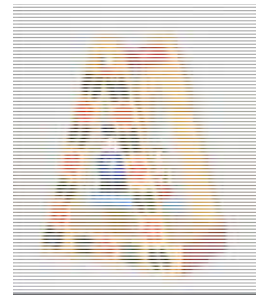


図3

◆ロカ夫 (16) じゃばらこさん (17) (口絵20)

当館にはキャバレーメカニカルシアターや西田明夫氏のからくり作品があり、継続して小型のからくりの収集を進めている。この市村繁吉氏の2作品、ウッドベースを弾く男性「ロカ夫」とバンドネオンを奏でる女性「じゃばらこさん」は、ジョイント部分を繋げると歯車がかみ合うようになっている、どちらか片方のハンドルで両方を動かせるように作られている。

◆箱根双眼写真 (18) (図4)

3D (立体視) が楽しめるおもちゃは現代でも人気があるが、文明開化のもと海外から入ってきたステレオスコープ (図5) の対象物として、明治以降日本各地の名所旧跡や催事の様子などがステレオ (双眼) 写真に残されてきた。この資料には、箱根の名所のほか当地を訪れた徳川家達 (いへさと) (1863~1940) 家の写真が含まれていて、家達の風貌や女性の髪形を見るに、大正期のものと思われる。



図4

◆ぺんてる双六 (19)

文具メーカーのぺんてるが販促用に制作したと思われる。子どもたちがぺんてるの画材を用いた写生大会で表彰を受ける (あがり) 様子が飛び双六になっている。場所探しやお弁当など写生大会の行程の他、ぺんてるの工場見学や百貨店の売り場巡りのマスもある。実際に開催されている川田孝子 (ゆりかご会)、川田美智子姉妹による歌の招待会やぺんてる主催の映画上映会が「各地巡回中」と紹介されている。



図5

◆autobille (album castor) (31) (口絵21)

フランス製の乗り物紙工作の型紙。子ども向けのような表紙のイラストだが、型紙自体はあまり頑丈ではなく、完成作は転がして遊ぶよりも、模型として飾るタイプのものかもしれない。ジープやトラック、レーシングカーなど最新の乗り物の色合いがしゃれている。

◆姉様 (郷土玩具研究シリーズ第一期第五巻) (33)

ままごとに使われた郷土玩具で、各地にさまざまなデザインが伝えられているものが「姉様」と言われる女性の人形で、顔を描かないもの、頭部だけの髪形が凝ったもの、あるいは素材も紙やちりめん、きびがらなど地域で異なり、数を集めるとその違いが楽しめる。本書は、グラビア、姉様遊びの歴史に加え、全国の姉様を外観、構成、材料によって分類し、関連書籍も紹介されている。鳥取県内は、現在見られるきびがら製以外にも、かつて「おやまさん」と呼ばれる繻子でできた姉様があったことが記載されており、今後その収集にも努めていきたい。

【参考文献】

『郷土玩具辞典』 新装普及版 斎藤良輔編 東京堂出版 1997年



### 【おもちゃ講演会】

タイトル：すぎやまあきらさんとともに

期日：平成25年11月23日（土祝） 場所：わらべ館 いべんとほーる

①おもちゃをつくろう 10:30～12:00

②ものがたりライブ 13:30～15:00

対象：小学生以上 参加者数：①39名 ②74名

#### ◆開催趣旨と概要

「おもちゃ講演会」では毎年おもちゃや遊びの専門家を招き、講演会やワークショップを実施することで、参加者がおもちゃの持つ力や遊びの可能性について学んだり体験したりする機会を提供している。

今回は、保育士、おもちゃ作家、児童文学者という経歴を持つ杉山亮氏をお招きし、第1部「おもちゃをつくろう」では、紙工作をする楽しみや作品を通して参加者同士が触れ合う場所づくり、第2部「ものがたりライブ」では、杉山氏の巧みな話術による素話を聴き、工夫されたことばあそびも楽しんだ。

まず第1部の「おもちゃをつくろう」は、当日まで敢えて具体的な内容を告知せずに参加者を募集した。その内容とは、おもな材料に色画用紙を用いてお弁当を作ってみようというもので、子どもから大人まで、自分の好きなおかずやご飯をどのように表現するか、紙工作で取り組んでもらった。和風・洋風・中華風、幕の内風や巻寿司といった様式の違い、同じエビフライでも表現方法の違いなど、自分の作品と他の参加者の作品を見比べる場面も見られ、次々にアイデアを盛り込んでいった。杉山氏は、おもしろいお弁当を次々紹介、評価しては他の参加者へも声をかけて会場を盛り上げ、だれもが「自信作」と呼べるようなお弁当を完成させていた。

第2部の「ものがたりライブ」では、現代落語のように嘘かまことかけむに巻かれる素話のおもしろさに加え、杉山氏 vs 参加者のしりとりでは、杉山氏が「トリ」→「㊦リフト」→「とんぴ」→「㊦ビスケット」という具合に、すべて「と」で終わることばをすばやく返すと、子どもたちも負けじと「と」ではじまることばをひねり出し、なかなか勝負がつかないことばのやり取りに会場も盛り上がった。

ものづくりの楽しさに加え、ことばの持つ力や話の間など、参加者それぞれが杉山氏の実演を通して得るものが大きかったと感じられる1日となった。

### 【エントランスギャラリー】

わらべ館1階のエントランスホールを地域のものづくりやコレクターの方々に広く利用していただくことを目的に、昨年度からはじめた企画で、当館のテーマ「童謡」と「おもちゃ」をモチーフにした作品を無料で展示する場として開放している。

①岩本実友貴創作人形展（口絵22）

会期：平成25年4月13日（土）～4月26日（金）

鳥取市の高校生、岩本実友貴氏が制作した大型の人形8点と制作用具などを展示した初の個展。樹脂粘土で頭部や四肢を成型、焼成し、布を用いた身体を取り付けて、ドレスやアクセサリーなども手作りしている。これまでに全国公募展で入選も果たすなど、今後の活躍が期待される。いつものわらべ館には見られないゴシックロリータの世界が会場に広がり、女性の観覧者も多く訪れていた。

②蛙 かえる カエル（口絵23）

会期：平成25年9月28日（土）～10月14日（月祝）



杉山 亮 氏



豪華なお弁当（箸付）



創作人形展風景

とにかくカエルが大好きという井戸垣<sup>いどがきよしこ</sup>淑子（井蛙 idoa）氏の手による、いろいろなカエルたちがケースに並んだ。合成樹脂や銀粘土製のアクセサリーのほか、フェルトや陶器の小物に器など、いたるところに大豆大から手のひらほどのカエルがさまざまな姿を見せた。観覧者はカエルひとつから生まれる表現の多様さに驚き、中には自分でも作ってみたいという相談を受ける場面もあった。

③鉄道模型ジオラマ展 北三陸鉄道と智頭急行 恋山形駅（口絵 24）  
期日：平成 26 年 2 月 4 日（火）～2 月 20 日（木）

津山市で塗装業を営む先本<sup>こうし</sup>廣司氏は、趣味で制作した鉄道ジオラマを携え、県内外のイベントで展示している。今回の展示では、実際に智頭急行線の恋山形駅舎をピンク色に塗装した経緯から制作したジオラマに加え、ドラマ「あまちゃん」の舞台にもなった「北三陸鉄道」と自身思い出の地「近州盆踊り」の 3 点を展示した。人気の鉄道企画に多くの観覧者が訪れ、細かい造形に感嘆していた。



運転体験

なお、2 月 15 日（土）には先本氏指導による運転体験会も行われ、子どもたちは準備された制帽をかぶり、運転手や車掌になりきって列車を動かす作業に夢中だった。

### 【実演イベント】

①うごく！からくりたち

期日：平成 25 年 5 月 18 日（土）15:00～15:45

国際博物館会議（ICOM）が定めた「国際博物館の日」に合わせ、普段はケース内で展示している小型からくりの実演、紹介を行った。キャバレーメカニカルシアターというロンドンのからくり工房に所属する作家の作品を中心に国内の作家の作品も交え、実際に動かして見せると、大人の男性は動物や人形など表の動きよりも機構に興味を持たれる方が多かった。

②水の日だから水とあそぼう

期日：平成 25 年 8 月 1 日（木）10:00～11:00（予定）

「水の日」当日は早朝が強風雨となったため実施を見送った。博物館実習生が水鉄砲の的に水を当てると絵が現れるしかけを作っていたので、後日天気の良い日、子どもたちに遊んでもらった。

③機械しかけの動物たち～電池でうごくおもちゃ～

期日：平成 25 年 8 月 14・15 日（水・木）24・25 日（土・日）16:00～16:30

当館では、昭和 30～40 年代にかけて、おもに輸出用に作られた電池で動く動物型のブリキ製玩具を所蔵している。からくり同様ふだんはケース内で展示しているが、その中でも状態が良い資料の動く様子を楽しんでいただくイベントを開催した。事前に動作確認したものの、急に動かなくなったり、諦めていたものが傾けると動いたり、とハプニングもあったが、懐かしさや珍しさなど世代によってさまざまな印象を持ってくださったようだ。パイプから煙が出るクマや魚を釣るシロクマ、手品をするウサギは特に人気があった。



魚を釣ると眼が光るクマ

### 【ボードゲームで探検！わらべ館】

期日：平成 26 年 2 月 16 日（日）13:30～15:30

参加者：小学生のみ 29 名

ボードゲームのルールの中に館内を探検する要素も盛り込み、小学生が仲間づくりのために積極性や協調性を育めるよう構成したイベントを開催した。昨年度同様、プログラム構成やグッズ制作、当日の指導など、鳥取大学教員養成センターの大谷直史准教授とボードゲーム研究会の協力をいただき、小学生にボードゲームをじっくり取り組んでもらった。プロ



数種類のボードゲームを体験

グラムの進行や構成には改善の余地があったが、小学生限定とはいえ、成長著しい5歳の開きがある異年齢集団をすぐに打ち解けさせる効果を十分に感じた内容だった。

#### 【おもちゃの病院】

毎月第4日曜日に患者さん（玩具）の診察と治療（時には入院）を行っている。修理や部品交換には、地域ボランティアのドクターや看護師が携わり、研修会等で技術向上も図っている。

毎回多くの患者さんが来られるが、ドクターが子どもたちの目の前で修理をする姿を通し、物を大切にするリサイクルの精神をはぐくんでもらう機会にもなっている。



#### 【おもちゃの銀行】

年間を通じて遊ばれなくなったおもちゃや引越し等を機会に手放すおもちゃを引き取り、おもちゃの病院や職員によるメンテナンスを経て、クリスマスシーズンに応募した子どもたちへプレゼントする企画。病院同様にリサイクルプレゼントできない壊れたおもちゃは、おもちゃの病院の部品補充に再利用している。



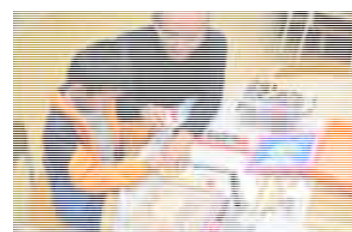
#### 【おもちゃ教室】

地域で活躍するおもちゃ作家や折り紙などの講師を派遣する企画で、園児から高齢者まで幅広い年齢層の集まりに応じた内容を提供している。梨の木を使った小物や因州和紙の作品など地域の特産を生かしたプログラムも設けている。



#### 【おもちゃづくり体験】

2階のおもちゃ工房で、土曜（第1土曜除く）と日曜、学校の長期休暇やゴールデンウィークに合わせ、館オリジナルの木工おもちゃキットを工作する場を設けている。16種類のキットは、絵を描くだけで完成するものから、鋸や金槌、錐を使う本格的な工作まで、時間と技術を考慮した内容が選べる。工房のスタッフによる補助があるので、初めて工具を使う機会にも活用されている。



#### 【わいわいボードゲーム】

毎月1、2回ボードゲームの日を設け、いろいろなゲームを楽しむ場を提供している。電気を使わない利点や、コミュニケーションツールとしての存在が増し、徐々に愛好者の裾野が広がっているボードゲームの入り口として、ルールが比較的簡単なものを中心に参加していただいている。



#### 【昔あそび】

ほぼ毎月第1土曜日の午後に、とっとりのお手玉の会「因幡」の方々をボランティアの指導者に迎え、参加者にお手玉遊びを楽しんでいただく機会を設けている。参加者の年齢層に合わせて技の難易度を上下したり、全員で輪になってわらべうたを歌いながらお手玉を回したりと、初心者、経験者ともに和気あいあいとしたふれあいを通してお手玉の魅力に親しんでいる。



わらべ館の今まで (おもちゃ関連の事項を掲載)

年度	月 日	出 来 事
1995 (平成 7)	7月 5日	ヘッセン人形博物館との間に姉妹館提携協定を締結
	7月 7日	わらべ館開館
1999 (平成 11)	11月 23日	「おもちゃ講演会」(年1回開催) 始まる。講師: 和久洋三氏 (おもちゃ作家)
2000 (平成 12)	11月 23日	おもちゃ講演会 講師: 岩城敏之氏 (おもちゃ研究者)
2001 (平成 13)	6月 23・24日	おもちゃ講演会 講師: 檜山永次氏 (おもちゃ作家)
	2月 21日	3階の新着資料コーナーを「ギャラリー童夢」とし、企画展を開催
2002 (平成 14)	6月 15日	おもちゃ講演会 講師: 多田千尋氏 (おもちゃ研究者)
2003 (平成 15)	7月 13日	おもちゃ講演会 講師: 松本零士氏 (漫画家)
	10月 23日	ヘッセン人形博との人形交流始まる。カスパール人形⇄干支の郷土玩具
2004 (平成 16)	6月 13日	ヘッセン人形博との人形交流② ケテクルーゼ人形⇄因伯牛の木彫り
	9月 23日	おもちゃ講演会 講師: 北原照久氏 (おもちゃコレクター)
2005 (平成 17)	7月 7日	ヘッセン人形博との人形交流③ トラハテンブッペン⇄押し絵羽子板
	9月 17日	おもちゃ講演会 (実演・指導) 講師: 藤田由仁氏 (日本独楽博物館館長)
2006 (平成 18)	8月 23日	ヘッセン人形博との人形交流④ 「星の銀貨」人形⇄五月人形「金太郎」
	11月 26日	おもちゃ講演会 講師: 長谷川重隆氏 (おもちゃ研究者)
2007 (平成 19)	10月 13日	おもちゃ講演会 (上映・講演) 講師: 松本夏樹氏 (映像研究者)、小崎泰嗣氏 (活動弁士)
	11月 5日	ヘッセン人形博との人形交流⑤ 「ケテ・クルーゼ」人形⇄「リカちゃん」セット
2008 (平成 20)	10月 18日	おもちゃ講演会 (折り紙教室) 講師: 山田勝久氏 (折紙作家)
	1月 29日	ヘッセン人形博との人形交流⑥ バランス人形⇄「超合金 仮面ライダー」
2009 (平成 21)	10月 18日	おもちゃ講演会 (ワークショップ・講演) 講師: ねもといさむ氏 (おもちゃデザイナー)
	2月 27日	ヘッセン人形博との人形交流⑦ のぼり人形⇄木のままごととセット
		この年度 わらべ館おもちゃの病院・わらべ館おもちゃ銀行開設
2010 (平成 22)	7月 10日	15周年記念「ノーム芳賀さんのおもしろ工作ショータイム」開催
	11月 23日	おもちゃ講演会 (絵本ライブ) 講師: 長谷川義史氏 (絵本作家)
	3月	ヘッセン人形博との人形交流⑧ ミニチュア人形⇄からくりこま
2011 (平成 23)	11月 23日	おもちゃ講演会 (ワークショップ) 講師: 服部かつゆき氏 (映像作家)
	12月	ヘッセン人形博との人形交流⑨ のぼり人形⇄お面替え人形
2012 (平成 24)	11月 3日	おもちゃ講演会 (ワークショップ) 講師: 石澤彰一氏 (押忍! 手芸部部长)
	3月	ヘッセン人形博との人形交流⑩ メルヘン人形⇄からくり独楽
2013 (平成 25)	11月 23日	おもちゃ講演会 (ワークショップとおはなし) 講師: 杉山亮氏 (おもちゃ作家、児童文学家)
	5月	ヘッセン人形博との人形交流⑪ 「キングダムビルダー」⇄日本の昔話のパペット

企画展の今まで

年度	タイトル	年度	タイトル
平成 14 年度	鳥取の郷土玩具展一節句のおもちゃたち	平成 20 年度	T o y 楽器展
	板裕生の世界～裕生が愛した鳥取のおもちゃたち～		プラモデル in 鳥取
	鳥取の郷土玩具作家三人展		おりがみ折紙 origami
	東北のこけしたち		うしにひかれてわらべ館
平成 15 年度	ひつじの郷土玩具展	平成 21 年度	団樂のカード&ボードゲーム
	雛と天神		しかけのおもちゃ
	愛され続けた市松人形		平成 20 年度新収蔵資料展
	雅な遊び		ようこそ! 寅の穴
平成 16 年度	申	平成 22 年度	ままごと大好き♡
	押し絵～絵と工芸の融合～		スポーツと玩具
	立版古～錦絵に込められた小世界～		平成 21 年度新収蔵資料展
	からくりの機素～物の動く仕組みを理解しよう～		うさぎ追いしわらべ館～干支の郷土玩具展
平成 17 年度	西	平成 23 年度	プッシュ&プル玩具
	テディベア～100歳を超えた友だち～		悪役紹介
	山本千恵子 和紙人形の世界		おもちゃと戦争
	こま コマ 独楽		辰のすがた～干支の郷土玩具展
平成 18 年度	戌年来る	平成 24 年度	ドイツのおもちゃ
	扇は胡蝶と戯れて～伝統遊戯 投扇興		平成 22 年度新収蔵資料展
	ドイツと鳥取 おはなしの世界		鉄道おもちゃで出発進行!
	懐かしさと新しさと～昭和 30 年代の子どもたち		おもちゃ○△□
平成 19 年度	日本のいのしし		水とおもちゃ
	少女の“夢”とリアル～着せかえ人形展～		中国の遊びとおもちゃ
	木のおもちゃ展～鳥取の木で遊ぶ～		へビー級です～巳年の郷土玩具～
	あやなす光と影 光学おもちゃと影遊び		平成 23 年度新収蔵資料展
	ちゅうちゅうねずかいな		うごく木のおもちゃたち～若林孝典作品展
			北條土人形～れんべえさんの世界

